

信じるものはすくらんぶる

◎登場人物

栗原栗子(くりはら くりこ)・・・NBC(日本の公共放送局) 3年目AD。25歳。
真崎慎一郎(まさき しんいちろう)・・・NBCのTVプロデューサー 43歳。
鈴木稔(すずき みのる)・・・老齡の詐欺師 67歳。
磯部浅葱(いそべ あさぎ)・・・結婚詐欺師 26歳。
西田光希(にしだ みつき)・・・学生政治団体LIMITのリーダー 21歳。
北輝奈子(きた きなこ)・・・学生政治団体LIMITの幹部 36歳。
高橋和喜(たかはし かずよし)・・・公共放送NBC子会社NBCテック役員 25歳。
松尾穂香(まつお ほのか)・・・政権与党政治家岡田城太郎の私設秘書 28歳。

渋谷。

劇場に入ると壁という壁が、渋谷のモノクロ写真で埋め尽くされて
いる。舞台中央奥には月が浮かび、舞台前面にはボックスが並ぶ。

【音響… 客入れ 渋谷スクランブル交差点】

開演直前

【音響… BGM】

音響が徐々に大きくなる。

【照明…暗転】

○序 1

【照明…室内】

渋谷。TSUTAYA。スターボックス。

栗子、誰かと話している様子。

栗子 うん、信じてるから。

栗子、手を振る。

そこへ、真崎が入ってくる。

真崎 ねえ、その書店さー

栗子 ！？（身体をビクッとさせる）

真崎 不死身の軍人が創業したんだって。

栗子 は？

真崎、横に座る。あっけにとられる栗子。

真崎 ここで問題。俺の頼んだメニューはなんでしよう？

栗子 ……ダークモカチップフラペチーノ、ですか？

真崎 おお、正解。さすがカフェでバイトしてただけあるね。

栗子 私バイトしてたのバーなんですけど。

真崎 あれ？ そうだったけ。

栗子　しかもダークモカチップフラペチーノはオンリースタバです。

真崎　あら、そう。

栗子　あの。

真崎　ん？

栗子　真崎さん、普通遅れてきたら、「ごめんお待たせ。」とか言うのがあるべき上司のあり方じゃないでしょうか。

真崎　ラインしたでしょ。「ごめん。色々決め事してたので、遅れます。」って。謝罪は済んでる。

栗子　にしたって、いきなり不死身の軍人の話はイかれていますよ。

真崎　イかれてるか。そうね。もしさ、

栗子　はい？

真崎　不死身の軍人がさあ、銃をこうやって持って、そのスクランブル交差点で乱射したら、かっこいいよね。

栗子　は？

真崎　「だだだだだだだだだ！」ってさ。

栗子　普通に大量殺人です。

真崎　わーつまんな。テレビマンはもっと好奇心を持たないと。

栗子　持ってますよ。世の中の大抵のことには。ただ真崎さんに対して好奇心がないだけです。

真崎　お、公共放送始まって以来の天才毒舌ADは言うことが違いますなあ。

栗子　そんなの周りが勝手に言ってるだけです。

真崎　その周りが大事でしょ？　その天才っぷりで、ずいぶん上層部にも気に入られてるらしいじゃない？

栗子　バランスが大事ですから。

真崎　俺はそういうのは苦手ですねー。

栗子　ですね。真崎さんはNBC始まって以来の変人プロデューサーですから。

真崎　え？　俺そんなこと言われてるの？

栗子　テレビを作らないテレビプロデューサーって。

真崎　ああ、それね。

栗子　気にしてないんですか？

真崎　昔は多少は気にしたけど？

栗子 今は？

真崎 今は逆。

栗子 逆？

真崎 時代が俺に追いついてきたからさー。テレビなんか作ってる場合じゃない。今はネットね、ネット。

栗子 まあ。

真崎 20年前は理解されなかったけど、今はみーんな俺が正しかったって言う。スマホを持ってれば受信料が取れる。俺たちの給料は確保される。

栗子 目的はそこですか。

真崎 俺は違うよ。でも会社としてはそういうこと。スクランブル放送もそう、受信料イコール俺たちの給料。

栗子 (早口で) NBCは、広く視聴者に負担していただく受信料を財源とする公共放送として、特定の利益や視聴率に左右されず、社会生活の基本となる確かな情報や、豊かな文化を育む多様な番組を、いつでも、どこでも、誰にでも分けへだてなく提供する役割を担っています。スクランブルをかけ、受信料を支払わない方に放送番組を視聴できないようにするという方法は見合理的に見えますが、NBCが担っている役割と矛盾するため、公共放送としては問題があると考えます。また、スクランブルを導入した場合、どうしても「よく見られる」番組に偏り、内容が画一化していく懸念があり、結果として、視聴者にとって、番組視聴の選択肢が狭まって、放送法がうたう「健全な民主主義の発達」の上でも問題があると考えます。

真崎 (ほぼ同時に) イヤイヤ、いいからそういうの。あーうるさい。うるさいうるさい。聞きたくないよー。聞きたくない。(など)

栗子 というのが会社の立場かと。

真崎 なんで模範解答覚えてんの。

栗子 よく苦情が来るので。

真崎 でもまあ。

栗子 なんですか？

真崎 一回くらいテレビをやってみてもいいかもなあ。

栗子 何を？

真崎 そりゃあ、生放送でしょ？ やらせ一切なしの徹底ドキュメント。

栗子 はあ。

真崎 興味なさそうじゃない？

栗子 真崎さんの話なんで。

真崎 旅行とかなら興味出る？

栗子 まあ。

真崎 九州旅行とかどう？

栗子 ああ、美味しいものいっぱい食べたいですねー。

真崎 今度博多の美味しい水炊き屋にでも連れてってあげるよ。

栗子 おお、それは嬉しいです。

真崎 そういふのは食いつくのね。で、どう成果は。

栗子 真崎さんは？

真崎 いや〜ダメね。当時のやつは残ってなかったし、手に入ったNBCの建設設計地図には、地下通路の記載はなかったよ。

栗子 建設されたの昭和中期ですもんね。

真崎 しかも陸軍関連ときたら、なかなか手が出しづらいよね。

栗子 もう諦めたらどうですか、その都市伝説。NBCの地下に裏金隠しながら。

真崎 いやイヤ。諦めたら入社した意味がない。でしょ？

栗子 まあ。

真崎 俺も、栗子も、この巨大な公共放送局に潜入してるスパイみたいなもんだし。

栗子 そんな大げさなもんじゃないですけど。

真崎 馬鹿正直に面白いもん作りたかったら、俺や栗子みたいな人は民放に行けばいいでしょ。それをわざわざここに入るんだから、ねえ？

栗子 でも私は別に渋谷の地下を掘るために入ったわけじゃないんで。

真崎 結果論ですよ結果論。今それが一番アツいってだけ。

栗子 真崎さんがアツいって言う時って主観だからだからなー。

真崎 今回は割と自信があるけど。

栗子 へえ。

真崎 霊のお告げがあったからね。

栗子 はいもう信用できませーん。

真崎 まあ聞いてよ。あっちの方、代々木公園から我らがNBCまでが陸軍の練兵場で、道を挟んだ向こう、渋谷公会堂やら神南小学校の区画が刑務所。

そして刑務所のNBC側の端は、ばばばーん。処刑場だった。

栗子 それが？

真崎 そこで処刑されたのが、二・二六事件の将校たちって話。俺の先輩はこの二・二六事件の将校たちの霊を深夜の編集作業中に見たことがあるとかないとか。

栗子 霊が言ったんですか？ 隠し金があるって？

真崎 まさにその通り。だって考えてみなよ。建設中の新社屋。建設費用1700億円だよ？

栗子 新国立競技場の1569億円より高いですね。

真崎 隠そうとしてるわけよ。二・二六事件の亡霊たちをさ。

栗子 で、「俺たちを隠すな」「隠し金をもみ消すな」って亡霊が真崎さんの先輩に言ったんですか？

【音響…デモの声】

真崎 まさにその通り！

栗子 くだらな！ 疲れ果てて変な夢でも見たんですよ。

真崎 夢のない話をするねー。

栗子 あれ。

真崎 ん？

栗子 LIMITでしたっけ？ 学生の政治団体。

真崎 あー。スクランブル交差点で、NBCのスクランブル放送導入を訴えるなんてお洒落じゃない。

栗子 最近盛り上がってますけど、うまくいくと思えますか？

真崎 いやー。ねえ。

栗子 真崎さんの描いてる夢も、彼らと同じようなもんですよ。

真崎 うまくいくと思うかどうか、これは栗子の聞き方が悪いよ。

栗子 え？

真崎 応援するかどうか、なら俺は応援するを選ぶ。

栗子 NBCの社員のくせに？

真崎 世の中にいるおじさんは、「若者の夢を応援するか」「若者の夢を潰すか」しかししない。そしてそのどちらもが、夢が叶うなどとは信じていない。

おじさんだからね。

栗子 二・二六事件ってクーデターですよ。

真崎 そうよー。日本の歴史に残るクーデター。陸軍の青年将校が約1500名を率いて行った大規模なクーデター。それだけのことをしても結局歴史の大きな流れは変えられなかった悲しきクーデター。

栗子 クーデタークーデターうるさ。

真崎 そしてクーデターによって、むしろ情勢は悪化したと言ってもいい。だけど、おじさんは彼らを応援する。もちろん、栗子。お前のことも、ね。で。どうだった？

栗子 クーデターマニア。

真崎 そんなマニアは聞いたことないね。

栗子 1957年に作られた渋谷地下街。その建設を担当した会社の社員を見つけました。

【音響… BGM】

真崎 え？ほんとに？ どうやって見つけたの？

栗子 ホームレスに聞き込みして回りました。渋谷の地理に一番詳しいのは彼らだろうと思ひまして。そしたら元社員っていう人に出会えました。

真崎 にしてもこれは。いきなり成果あげすぎでしょ。で？ あるって？

栗子 ス克蘭ブルの地下からNBCに繋がる道があるかも。

真崎 おー、やっぱり天才だねー。

真崎、立ち上がる。

栗子 会いに行くんですか？

真崎 まさにその通り。

栗子 案内します。代々木公園です。

【照明…レッド】

栗子、真崎、去る。

去り際で、人々が錯綜する。

○序2

【照明・公園 夕】

代々木公園。

鈴木が杖をつきながら入ってくる。

新聞と発泡酒の缶が入ったビニール袋をぶら下げている。

鈴木、ベンチに座り、新聞を片手にお酒を飲む。

そこに浅葱が入ってきて、ビールを2缶、置いて座る。

驚いた様子の鈴木。

浅葱、ビールを片方手に取り、飲む。

浅葱 発泡酒売り上げナンバーワンよりも、ビール売り上げナンバーファイブの方が美味しいですよ。

鈴木 オリオンビール。

浅葱 はい。

鈴木 もらっていいの？

浅葱 はいもちろん。

鈴木、オリオンビールを開けて、乾杯し、一口飲む。

鈴木 こいつはな、沖縄がアメリカの占領下だった時に、戦後の社会経済復興には第二次産業を興さなければいけないという、創業者の強い意志がこもった酒だ。

浅葱 お詳しいですね。

鈴木 だが、その気概もアメリカの投資ファンドに買収されるという形で幕を閉じた。この国はおしまいだよ。

浅葱 悲しいですね。

鈴木 ああ。

浅葱 でも会社が潰れたわけじゃないんですよね？

鈴木 まあな。

浅葱 こうして美味しく商品はいただけます。

鈴木 まあ、そうだな。

浅葱 あなたも、潰れたわけじゃないんですよね？ 鈴木、稔さん。
鈴木 ……。誰だ？
浅葱 どうして、こんな生活をしているんですか？
鈴木 どうして？
浅葱 お金ならたくさん持つてるんじゃないんですか？
鈴木 なんの話だ？
浅葱 教えてくださいよー。
鈴木 放っておいてくれ。
浅葱 伝説の詐欺師。そう呼ばれていたらしいじゃないですか？
鈴木 ……あんたは誰だ？ 何が望みだ？
浅葱 沖繩に帰らないのは、東京でまだやりたいことがあるからじゃないんですか？
鈴木 ……やりたいことなんてないさ。

【音響…デモの声】

鈴木 公園まで来たか。
浅葱 え？
鈴木 あのうるさい連中だよ。LIMITとか言う学生の政治団体。
浅葱 お嫌いなんですか？
鈴木 ……嫌いとは違う。
浅葱 じゃあ？
鈴木 悲しくなる。
浅葱 悲しくなる？
鈴木 空虚な努力だ。
浅葱 私はあなたの孫です。
鈴木 孫？
浅葱 沖繩に残してきた女の方がいますよね？ 大沼豊子。おばあちゃんの
名前です。
鈴木 バカ言え。とよは。
浅葱 そう、あなたは離れていったはず。でもあの時おばあちゃんはお母さん
を身籠ってたんです。

鈴木 信じられるものか。

浅葱 うちに来ませんか？ アルバムでも見ながらゆっくり話しましょう？

鈴木 ……話すことなんて、ない。

浅葱 私、実は詐欺師をやってるんです。

鈴木 ……。

浅葱 血は争えませぬね。

鈴木 汚い血だ。

浅葱 うちに来ませんか？

鈴木 自ら詐欺師と名乗る女について来いと？

浅葱 おじいちゃん次第です。

鈴木 おじいちゃん。

浅葱 汚い血で繋がった家族の1人です。

鈴木 私を、探してたのか？

浅葱 7年前を境にあなたはこの世界から足を洗ってしまった。探すのは苦

勞しました。

鈴木 随分、調べあげてるな。

浅葱 おじいちゃんのことなので。

鈴木 ……いいだろう。そのアルバムとやら、見に行こう。

浅葱 やったー。

鈴木 やったー？

浅葱 信じてもらえて嬉しいから、やったーです。

鈴木 信じたわけじゃない。

浅葱 でも、やったー、です。

鈴木 ふん。

浅葱 すぐ近くですよ。NBCからちよつと歩いたところです。歩けますか？

鈴木 その程度。なんのことはない。

浅葱 よかった。

鈴木 おいまさかアレじゃないだろうな。(進行方向、上の方を指して)

浅葱 よくわかりましたねー。アレです！

鈴木 だいぶ儲けてるようじゃないか。

浅葱 おじいちゃんの孫なんです。

【音響… BGM】

鈴木 名前は？

浅葱 え？

鈴木 名前だよ。お前の。

浅葱 浅葱です。

鈴木 浅葱。

浅葱 磯部浅葱。

鈴木 磯部浅葱。

浅葱 行きましよう。磯部浅葱の家へ。

鈴木 今夜は。

浅葱 はい？

鈴木 今夜は月が綺麗だ。

浅葱 え？ はい。そうですね！

浅葱、鈴木、去る。

【照明…レッド】

去り際に人々が錯綜する。

○序3

【照明…公園 夜】

輝奈子と光希が入ってくる。

輝奈子 お疲れ様。

光希 お疲れ様です。

輝奈子 すっかり月が出ちゃってるねー。

光希 そうですね。

輝奈子 「月が綺麗ですね。」

光希 え？

輝奈子 少し、そこで話そうか。

光希 あ、はい。

ベンチに座る2人。

輝奈子 「月が綺麗ですね。」

光希 夏目漱石ですか？

輝奈子 そう。夏目漱石はアイラブユーを「月が綺麗ですね。」って訳したって
いう噂があるけど、光希ちゃんだったらなんて訳す？

光希 私だったら、ですか？

輝奈子 うん。

光希 私は、直球ですかね。「愛してる」

輝奈子 その心は？

光希 その心は、まっすぐじゃないからです。

輝奈子 ほう。

光希 煩わしいんですよ。まどろっこしいんですよ。「月が綺麗ですね。」な
んてのは。そんなものは奥ゆかしさじゃありません。そんなの相手の心に届
くわけじゃないじゃないですか。そんな精神だから、建前だらけのマニフェスト
が生まれるんです。人間いつだって芯をついていかなきゃいけません。

輝奈子 光希ちゃんらしいね。

光希 じゃあ輝奈子さんは、なんて訳すんですか？

輝奈子 まあ、ケースバイケースだけど、今ここでは、「手を繋いでもいいです
か？」かな。

輝奈子、光希の手を握る。

光希 え？

輝奈子 直球の「愛してる」それはそれで、かっこいいけど、でも私たちのや
ろうとしていることは、もう一步先に行かなきゃいけない。

光希 一步先？

輝奈子 日本を変えましょう。現政権を倒しましょう。それが「愛してる」。具
体性がない。私たちに求められているのは、「愛してる」から何をするか、じ
やない？

光希 行動で示すってことですか？

輝奈子 そういうこと。だって男の子に告白される時に「好きです」だけだと

困らない？

光希 そうですかね？

輝奈子 私は困っちゃう。「好きだから」「付き合ってください」なのか、「好きだから」「伝えたかっただけなんです」なのか、「好きだから」「一緒に死んでくれ」なのか、全然わからないでしょ？

光希 付き合ってください……じゃないんですかね？

輝奈子 そうじゃない人もいる。

光希 気持ちを伝えるだけで満足ってことですか？

輝奈子 そう。でも私たちLIMITはそれだけじゃダメ。気持ちを伝えるだけじゃダメ。

光希 はい。わかってるつもりです。

輝奈子 あなたは私たちのリーダーなんだからね。

光希 はい。

輝奈子 手を繋ぐ。私たちが何をするのかをちゃんと伝える。そしてそれを実行する。

光希 そうですね。

輝奈子 さしあたってはNBCのスクランブル放送導入。減税でも少子化対策でも、給付金でもない。まずは目に見えて支援者が直接・対面で・実感して・忌み嫌っているものを敵に回す。ゼロをプラスではなく、目に見えるマイナスをゼロにする。

光希 あの。

輝奈子 なに？

光希 その順番で、本当にいいんでしょうか。本当はもっと先に、やらなければいけないことが。

輝奈子 ある。あるけど、それは今やることはできない。まずは先立つ物がなければ。大衆は味方につけるのではなくて、煽動するの。

光希 煽動？

輝奈子 大衆は自分の意見で動いているつもりでも、その多くは、ある流れ、風に流されているだけ。そのある風の流れを作れるのは、旗となれる人間だけ。

光希 旗となれる人間？

輝奈子 それがあなた。さあ、今日のことをまたツイッターでみんなに伝えて

あげて。

光希 え？ あ、はい。

輝奈子 それから。

光希 はい。

輝奈子 それから、そろそろ光希ちゃんには、戦略を学んでもらわないとね。

光希 戦略？

輝奈子 あなたは自分が何者なのかをしっかりと把握する必要がある。

光希 はあ。

輝奈子 月はね、こうして見ているととっても綺麗だけど。

光希 はい。

輝奈子 裏側はとってもグロテスクなの。知ってた？

光希 え？

輝奈子 その裏側をどんどん見ることになるから。心の準備しといてね。

光希 裏側って。

輝奈子 大丈夫。あなたはただ見るだけでいいから。じゃあね。

輝奈子、去る。

スマホを操作し、投稿する光希。

そこに真崎と栗子が通りかかる。

○序4

栗子 いませんね。

真崎 どういうこと？

栗子 行動パターン的には夜は大体この辺りにいたはずなんですけど。

真崎 詰めが甘いなー。

栗子 すいません。

真崎 まあいいよ。ゆっくり行こう。

栗子 そうですね。ゆっくり。機が熟すのを待ちましょう。

真崎 まあ、そうも言ったららないんだけどねー。

栗子 そうなんですか？

真崎、光希に気づく。

真崎　ねえ栗子。
栗子　はい。

【音響… BGM】

真崎　あれ。
栗子　え？
真崎　あそこ、座ってるの。
栗子　はい。
真崎　LIMITの西田光希。
栗子　え？
真崎　ほら、見てみ。
栗子　あ。ですね。
真崎　よし。栗子、聞き込みしよう。
栗子　え？　何を？
真崎　その地図のジジイを探してるフリして近づいてみ。
栗子　なんで？
真崎　LIMITの西田光希として接してたらボロは出さない。一般人として話しかけてみたら、何か漏らすかもしれない。
栗子　何かって。何を知りたいんですか？
真崎　資金源よ資金源。LIMITに活動資金を回してるのはどこの誰なのかってのを探るんよ。
栗子　ホームレス探しからどうやってそんな話題に切り込むんですか。
真崎　そこは、ほら、うまくやってよ。
栗子　丸投げですか！
真崎　じゃあ例えば。
栗子　例えば？
真崎　資金源の話はゆっくり聞けばいい。まずはお友達になる。
栗子　お友達？

【音響…スマホの着信音】

真崎 なに、こんな時に。(電話に出る) ……はい、真崎です。 ……おお！ さすが！ ……。でもギリギリだね。あとはいつでも行けるように。 ……うん。(栗子を見て) ……え？ 今から？ いや、あ、はい。わかりました。行きますよ。ここからだ、はい。20分くらいですかね。はい。はい。失礼します。(電話を切る。)

栗子 何ですか？

真崎 呼び出し食らっちゃった。会社戻らないと。

栗子 え？ 今からですか？

真崎 そう。来季予算の提出すっかり忘れてた。部下に怒られちゃった。ギリギリだよ。

栗子 何やってんですか。

真崎 そこはごめんて。だから、ジジイと西田光希の件は任せたよ。いい？ 何時になってもいいから終わったら連絡ちょうだい。

栗子 いや。それ。

真崎 じゃあ、頼んだよ。

栗子 例えばは？

真崎 任せる。

栗子 酷くないですかそれ。

真崎 目的は伝えただし。方法は任せる！ じゃ！

真崎、去る。

栗子、ため息をついて、光希の方を見る。

栗子、しばし考えた後、鞆からピースを取り出し、投げる。

スマホでライトをつけ、光希の周りをうろつく。

光希、栗子に気づく。

栗子 あ、すいません。

光希 いえ。

栗子 昼間にピースを落としてしまいました。こんなやつなんですけど。みかけませんでしたか？

光希 あ、いや。
栗子 そうですか。

光希、スマホのライトをつける。

光希 この辺なんですか？

栗子 あ、すいません。いいです、いいです。私個人的なアレなので。

光希 いいですよ全然。昼間ここに座ってらっしゃったんですか？

栗子 会社がこの近くのなもので、ランチにお弁当をここで。

光希 そうだったんですね。

栗子 あんまり会社でお弁当食べたくなって。

光希 わかります！ ……と言っても私社会人じゃないんですけど。

栗子 学生さんですか？

光希 はい。あの、高校時代とか、まあ、今もそうなんですけど、お弁当は基本外で1人で食べるタイプで。

栗子 あ、わかります。私も昔からそうなんですよ。

光希 みんなと食べてると休み時間って感じがしなくて。

栗子 ですよー。おしゃべりでマイペースな不健康そうな顔した上司とか

と一緒に、休んだ気がしないです。

光希 そんな方が上司なんですか。

栗子 そうなんですよ。困ったもんです。

光希、ピアスを見つける。

光希 あ！ ありました！ これじゃないですか？

栗子 ああ！ それです！ それ！ ありがとうございます！

光希 はい。(ピアスを渡す)

栗子 ありがとうございます。ああ、なんとお礼を言って良いやら。

光希 いいですよお礼なんて。

栗子 ダメです！

光希 え？

栗子 このピアス。お母さんの形見なんです。私、早くに両親を亡くしてて。

だから、本当にこれが見つかってよかったというか、まあ、だったら最初から失くすなよって感じなんですけど。

光希 そうだったんですか。見つかってよかったですね！

栗子 あの！何かお礼させてもらえませんか？ ご飯でも、あ、夕飯まだだったりします？

光希 まだですけど。いいです。全然お構いなく。

栗子 お母さんに教わったんです。「人から親切を受けたら必ず返しなさい」って。

光希 でも。

栗子 お時間大丈夫ですか？

光希 はあ。

栗子 じゃあ遠慮なさらずに。会社がこの辺なので美味しいお店知ってるんです。

光希 いや、でも悪いですし。

栗子 お礼だけじゃないです。

光希 え？

栗子 お弁当のお話。

光希 お弁当？

栗子 お友達になれそうかもって思ったんです。

光希 はあ。

栗子 お礼させてください。

光希 まあ、じゃあ、少しだけなら。

栗子 ありがとうございます！ あー、んー私くめはらようこって言います。

【音響…BGM】

光希 くめはら、ようこ。あ、私は、西田光希と言います。

栗子 西田さん。西田さんは、大学何年生ですか？

光希 3年です。

栗子 あ、じゃあお酒も大丈夫ですね。

光希 はあ、まあ。

栗子 じゃあバッチリお店決まりました！ ついてきてください！

光希 あ、はい。でも私、あんまりお酒。
栗子 少しだけですから、ね。
光希 は、はあ。

【照明…レッド】

栗子、光希、去る。
去り際に人々が錯綜する。
高橋と松尾が入ってくる。

○序5

【照明…室内】

個室高級料理店。
会食をする高橋と松尾。

高橋 松尾さんはたたき上げですもんね。

松尾 え？

高橋 僕のこと、ボンボンだって思ってるんでしょう？

松尾 いえ、そんな。

高橋 いいんですよ。どうせボンボンですから。だってNBCの会社役員が
父親だからって、NBC子会社のNBCテックに入社2年で役員ですよ。一
般的なルートじゃそうはいきません。

松尾 素晴らしいお父様じゃないですか。

高橋 世間で言う「親ガチャ」に成功したってことなんですかね。

松尾 どうなんでしょう？

高橋 だってそうじゃないですか？ 幼稚舎から大学までずっとエスカレー
ター。就活だって碌にしません。なのに今は会社役員。ふざけてません？

松尾 私からはなんとも。

高橋 松尾さんは「親ガチャ」どちらかといえば、外れ、ですよ？

松尾 そうかもしれません。

高橋 僕ね、松尾さんのこと、尊敬してるんですよ？

松尾 え？

高橋 僕はね、昔からわかってたんですよ。僕、つまり高橋和喜と言う人間

には何にも価値がないと言うことを。だから使えるコネは全部使うことにしたんです。

松尾 はあ。

高橋 でも松尾さんはまるで僕と逆じゃないですか。

松尾 逆、ですかね？

高橋 逆ですよ。苦勞していい大学入って、苦勞して会計士の資格とって、

さらに苦勞して、今は政治家の秘書なんてやってる。

松尾 まあ、自分が決めたことなので。

高橋 そですよ！ 僕にはそれが無い。自分が決めたことが。いや、強いて言えば、逆に決めたことを決めたと言ってもいいかもしれません。だから僕はここにいます。

松尾 決めないことを決めるのも、なかなか大変なご判断かと思えます。

高橋 でもね、松尾さん。僕は今回、久々にワクワクしてるんですよ。

松尾 ワクワク？

高橋 結局コネとは言え、これは大きい。とっても大きいですよ。政治家岡

田城太郎の私設秘書さんとのコネなんて。

松尾 そうでしょうか。

高橋 本社の考えはわかってますよ？ 僕にこれをやらせるってことは。

松尾 ことは？

高橋 トカゲの尻尾切りがしやすいようにするためだってことくらいは。

松尾 そんなことは。

高橋 いやいや、この話が来た時に、すぐわかりましたよ。2年前、役員に

されたのは、このためだったのだから。

松尾 私からはなんとも。

高橋 松尾さん。岡田城太郎に政治資金を調達する。それでいいんですか？

松尾 はい？

高橋 僕とあなたが協力すれば、このお金は別のことにも使えるってことで

す。

松尾 そんな、滅相もない。

高橋 10億ですよ。

松尾 存じ上げております。

高橋 10億で僕は父親から解放され、10億で松尾さんは岡田城太郎議員

高橋

高橋

高橋

高橋

高橋

高橋

高橋

から解放される。

松尾 高橋さん、酔ってらっしゃいます。今日はもうお開きに。

高橋 松尾さん、人って、どうやって動かすか知ってますか？

【音響・BGM】

松尾 はい？

高橋 松尾さん、政治家になりたいんですよ？

松尾 ……それが何か？

高橋 父親が詐欺師なんて、世間にバレたら、選挙に出馬しても議員にはなれませんか。

松尾 詐欺なんて、そんな。

高橋 友人が大手の調査会社に勤めてましてね。いろいろ調べてもらったんですよ。松尾さんのこと。

松尾 人を動かす、とはそう言うことですか。

高橋 国からお金を騙し取る、そんな人の娘が政治家になれますか？

松尾 騙し取る、というのは大げさな話です。

高橋 十分立派に犯罪ですよ。

松尾 ……。

高橋 この世をばわが世とぞ思ふ望月の欠けたることもなしと思へば。

松尾 藤原道長。

高橋 親ガチャ、失敗しちゃうとね、本人がどれだけ頑張ったところで、こういうところで足を引っ張っちゃうんですよねー。

松尾 私は、「親ガチャ」と言う言葉はあまり好きではありませんが。

高橋 が？

松尾 ……。

高橋 どちらに転んでも、クリーンではいられない、手は汚さなければならぬ。だったら、自分に利益のある選択をすべきじゃないですか？

松尾 すでに私はクリーンとは言い難いですよ？

高橋 まあ、政治家先生の下についてたらそうですね？

松尾 ……具体的には何をさせるつもりですか？

高橋 L I M I T って知ってます？

松尾 学生政治団体の？

高橋 そうです。そのリーダーと幹部に会うことになっています。

松尾 それで？

高橋 いつもNBCから岡田議員に資金を流す時に、架空の会社を作ってま
すよね？

松尾 そうですね。

高橋 直接流してバレたらマズいですからね。いつも架空の会社・ペーパー
カンパニーを通して、資金を流しています。NBCテックが7年前に作った
7つの口座を利用して、です。トカゲの尻尾は切りやすいようにしておか
ないと。

松尾 そういうことでしょうかね。

高橋 それを利用するんですよ。尻尾の逆襲です。

松尾 しつぽの逆襲。絵本のタイトルみたいですね。

高橋 成功したら絵本にしましょう。しつぽ。つまり今回NBCから岡田議
員に資金を移すために設立する架空の会社。その会社の役割をLIMITに
させます。

松尾 なんの意味が？

高橋 LIMITが金を持ち逃げした形にして、その金を我々が手に入れま
す。責任は全てLIMITに被せます。そうすれば僕と松尾さんで5億・5
億です。

松尾 5億・5億。どうやってLIMITに渡った10億を私たちの手に戻
すんですか？

高橋 NBCからLIMITに回った10億。そのまま持っておくのは危険
だと峻して、10億を一時的にアート作品に変換させます。しかしそのア
ートの価値が下落。

松尾 そんな都合よく下落するアートが？

高橋 近々、一気に下落する作家の情報を手に入れました。

松尾 そんな情報が。

高橋 そうすればLIMITは自滅。僕とあなた、父と岡田議員は被害者。
金の行方は僕とコネのある美術商。どうです？

松尾 LIMITはそんな話に乗ってきますかね？

高橋 LIMITは今、活動資金集めに奔走しています。僕のところの話が

来たのも偶然その一つ。利用しない手はありません。

松尾　　そうですかね。

高橋　　コネは全て使わないと。だから、そこに松尾さんの後ろ盾があれば、絶対に信じ込ませられます。

松尾　　後ろ盾、ですか。

高橋　　岡田議員が絡んできると思えば、LIMITは信じます。10億どころか1円の価値もなくなる芸術品を抱えて途方に暮れる。そして岡田議員が資金が流れないと僕に文句を言ってきたら、僕はLIMITにちゃんと流したと答えます。LIMITがマネーロンダリングに失敗して、金を失ったと、ね。

松尾　　それで一時的には岡田先生の追求は逃れられるとは思いますが、捜査が進めば……。

高橋　　そこで松尾さんですよ！　ネタ、持ってますよねきっと。私設秘書さんですもん。議員を失脚させるようなネタ。持ってますよね？

松尾　　まあ、いろいろと、手は広げてらっしゃる方なので。

高橋　　どうです？

松尾　　……わかりました。少し、考えさせてください。

高橋　　岡田議員に相談、なんてしても無駄ですよ。

松尾　　え？

高橋　　僕が担当から外されるだけでしょね。

松尾　　それでもいいと思ってるらっしゃると？

高橋　　だってそうでしょう？　元々トカゲの尻尾なんです。自分から切れるか本体から切られるかの違いだけです。僕も、あなたも。だからやりましようよ。しっぽの逆襲。

松尾　　高橋さん。

高橋　　決めましたか？

松尾　　「親ガチャ」。そんな言葉に囚われてしまっている時点で、私も、あなたも、本質の部分では同じ、と言うことなのかもしれません。

高橋　　……。

松尾　　高橋さん、お父様の愛情を感じたことはありませんか？

高橋　　……。

松尾　　協力します。（手を差し出す。）

高橋 対等だつて言いたいんですか？
松尾 はい？
高橋 僕と、対等に取引しようって言うんですか？
松尾 いえ。
高橋 なら、愛情がどうか、余計なことは言わないでください。
松尾 それは……失礼しました。

【音響・BGM】

高橋 (松尾と握手して) じゃあ、具体的な計画を話します。ここではアレ
なので、僕のうちに。
松尾 高橋さんのうちですと、高橋さんのお父様の手が入っている可能性が
あります。ここは、私の家に。
高橋 まあ、そうですね。そうしましょうか。一旦うちに寄っていいですか？
必要なものを持っていきます。
松尾 はい。もちろんです。
高橋 タクシーで行きましょう。
松尾 はい。

高橋、松尾、去る。

【照明・レッド】

去り際に人々が錯綜する。
入れ替わりで栗子と真崎が入ってくる。

○序6

【照明・室内】

栗子 いいんですか？ こんな高そうなお店。
真崎 前祝いさ。それにどうせ、制作費で落とすし。
栗子 うわー、悪い。マスコミにリークしますよ。
真崎 こんなんでリークされたら、この業界、リークされない人は1%未満

じゃない。

栗子 腐った業界ですね。

真崎 業界が腐ってるんじゃない。日本が腐ってるの。いや、世界か。

栗子 世界のせいですか。

真崎 まあ、そんなところ。

栗子 1人1人、個人の問題だと思いますけどね、私は。

真崎 個人を形成するのは集団だよ。

栗子 まあそうですけど。

真崎 人は集団なくして生きられない。これは原始時代から人がいる限り脈々と続く。

栗子 うるさ。

真崎 え？

栗子 こんな美味しいご飯の前で前祝いだって言って、そんな話するんですか？

真崎 (笑って) そりゃまさにその通り。前祝いらしく楽しい話をすべきだった。

栗子 そうですよ。

真崎 ただ。

栗子 ただ？

真崎 前祝いと言いつつ、今日は栗子をこういうところに慣れさせる場もあるんだよ。

栗子 慣れさせる？

真崎 老人の話によると、渋谷NBC地下にあるのは、1台のパソコン。そこから隠し資金にアクセスできるって噂。

栗子 老人に会ったんですか？

真崎 ん？ 会ったよ？

栗子 どこにいたんです？

真崎 代々木公園。

栗子 なんで？

真崎 なんてって、栗子が教えてくれたんじゃない？

栗子 そうなんですけど。

真崎 で、今その隠し資金にアクセスできるパソコンの管理を任されている

のが、NBC子会社、NBCテックの役員、高橋和喜らしい。
栗子 そんなことまで？

真崎 情報っていうのはどこに転がってるかわかんないねー。本社の高橋役員の子だよ。

栗子 そうですね。

真崎 ここまでなら、なるほどそうなのか、で済んだ話。

栗子 もう十分事件ですけどね。

真崎 まあね。でもここでまた栗子の天才ぶりが発揮されたというわけだね。

栗子 指示したのは、真崎さんですけどね。

真崎 栗子が仲良くなったLIMITのリーダー、西田光希。高橋和喜から資金援助の申し出があったらしいじゃない？

栗子 はい。不安だから一緒に来て欲しいと言われました。

真崎 いやあ、全く栗子はすごい才能の持ち主だ。LIMITリーダー西田は内部の運営に不安を感じてる。そこをうまくついたわけだね。

栗子 いや、普通にお酒飲んだだけですけど。

真崎 その日我々は素性を隠し、LIMIT側として、高橋に会う。

栗子 そうですね。

真崎 でもここで問題が。栗子は優秀だけど、悲しきかな、口が悪い、育ちが悪い、目つきが悪い。

栗子 問題というか問題発言です。

真崎 役員やら、政治やらが絡んだ場に馴染みが悪いってこと。この雰囲気参考にして少しはうまく立ち回れるようにって配慮だよ。

栗子 真崎さんがだいぶ雰囲気ぶち壊してますけど。

真崎 おっと、そうそう。その日は真崎はやめておこう。

栗子 偽名ですか？

真崎 そうね。うん。横崎だ。

栗子 横崎？

真崎 そう。俺はその日、真崎慎一郎じゃなく横崎進次郎。

栗子 はあ、わかりました。

真崎 栗子はマロン。

栗子 は？

真崎 栗子はマロン。

栗子 ……。
真崎 マロンちゃん。
栗子 ……要子。
真崎 マロ
栗子 要子。
真崎 要子。
栗子 糸原要子。(くめはらようこ)
真崎 糸原要子？
栗子 はい。それでいきましょう。横崎さん。
真崎 ……西田に本名言っていないの？
栗子 はい。もう糸原要子で言っちゃいました。
真崎 さすがだねー。糸原要子。

【音響…BGM】

栗子 はい。
真崎 俺たちの目的は、NBCからの資金移動が行われる証拠をつかむこと
だけど、その先。
栗子 その先？
真崎 俺は、NBCの資金の一部が政治家・岡田城太郎に流れているという
噂の真相も突き止めたい。
栗子 岡田議員……。もしそんなの発覚したら、ロッキード事件やリクルー
ト事件並み、いやそれ以上の大汚職事件じゃないですか。
真崎 NBCもおしまい。本当にスクランブル放送になるかもね。
栗子 笑えないですよそれ。
真崎 よーし、次はおしゃれなバーへ移動だ！
栗子 もう飲みたいだけですよねそれ。
真崎 違うぞー。危なっかしい話は個室で。楽しい話はおしゃれなバーで。
基本さ基本。
栗子 そんな基本誰が唱えたんですか？
真崎 二・二六事件の亡霊を見た俺の先輩。
栗子 はいもう信じられません。

【照明 レッド】
栗子、真崎、去る。
去り際に錯綜する人々。

○序
7

【照明 室内】

【音響 卵を炒める音】

浅葱と鈴木の声。

鈴木 ああ、下手くそ！
浅葱 色々口出すからでしょ！
鈴木 これは炎とのタイムアタック。もたもたしてちゃいけないだよ。
浅葱 だから、そう言うのやめてって！
鈴木 ああ、ほら。
浅葱 もういい！
鈴木 あ、何してんだ！

浅葱、鈴木、お皿を持って出てくる。

鈴木 オムレツがスクランブルエッグになってしまった。
浅葱 創意工夫で、挽回したの。
鈴木 浅葱は、料理、しないのか。
浅葱 簡単なものならするけど。
鈴木 オムレツは難しかったか。
浅葱 だいたいね、孫だからって、おばあちゃんと同じものが得意料理ってわけじゃないの。
鈴木 とよのオムレツは美味しかったなあ。とろとろで、ふわふわで。
浅葱 知らないよ。食べたことないもん。
鈴木 ま、炒り卵にならなかっただけよしとするか。
浅葱 スクランブルエッグだって炒り卵だって美味しいでしょうが。

鈴木 とよのオムレツが食べたかったなあ。
浅葱 ぐちぐちうるさいな！
鈴木 ふわふわのところだった。
浅葱 ねえ、おじいちゃん、おじいちゃんって本当に凄腕の詐欺師だったの？
鈴木 なんだ？ 疑ってるのか？
浅葱 だって。
鈴木 いいんだ。
浅葱 え？
鈴木 引退したんだから、いいんだよ。
浅葱 何それ？
鈴木 ずっと、張り詰めてたんだ。

【音響・BGM】

浅葱 張り詰めてた？
鈴木 誰も、信じられない。当たり前だ。自分がこれだけ人を騙してたらな。
浅葱 よくわかんない。
鈴木 歳をとった、といえは、それまでだが。
浅葱 が？
鈴木 この人間社会。金があればいくらでも楽しく生きていけると思ったが、
浅葱 結局、最後は人と人。人に恵まれなければ幸せにはなれないってことだ。
浅葱 それであんな、ホームレスみたいな生活を？
鈴木 それで何かが変わるわけじゃないが、金を使った楽しみっていうのは
浅葱 嫌でも金を狙った嫌なやつらと付き合わなければならぬからな。
浅葱 お金自体は持つてるの？
鈴木 随分使ったが、それでも億は残ってる。この生活は健康でなければで
浅葱 きない。健康を害した時には結局金の力を使わねばなるまい。
浅葱 ふうん。楽しいの？ ホームレス生活？
鈴木 この生活をしているからこそ、(笑って)オリオンビールが美味かった。
浅葱 そう。
鈴木 とよが、既に亡くなってしまっていたのは、非常に残念だったが。
浅葱 うん。

鈴木　だが、こんな私にも孫がいることがわかった。血の繋がりがあった。この世界に1人でないことを知れた。今までよりも少し、楽しく暮らせようだ。

浅葱　そう言うもんなか。

鈴木　そうさ。まあ、現役でバリバリ稼いでる浅葱にはまだわからんと思うがな。

浅葱　うん。わかんないね。それに。

鈴木　それに？

浅葱　詐欺師だから信じられる人がいないってのは違くない？

鈴木　なぜそう思う？

浅葱　自分が信用できるって思った人だったら、信じたらいじゃん。

鈴木　「この人なら信用できる」。そう思わせて散々裏切ってきておいて、そんなことができるもんか。

浅葱　ふうん。でもさ。

鈴木　でも？

浅葱　おばあちゃんには、騙されてもいいって、思ったから、ずっと愛し続けてるんでしょ？

鈴木　愛、と言う言葉は面映ゆい。

浅葱　面映ゆい？

鈴木　きまりが悪い。私にとって「愛」は嘘のために使う言葉だ。

浅葱　なるほど。まあ、それはそうか。私もそういうところあるかな？
ないっちゃんないけど。

鈴木　共感なのか否定なのかわからんな。

浅葱　で？ おじいちゃんはおばあちゃんのことどう思ってるの？

鈴木　ずっと思っている、ただ、それだけだ。

浅葱　どうして？

鈴木　ん？

浅葱　どうして、そこまで思ってた、おばあちゃんを捨てて東京に出たの？

鈴木　悪い、夢を見た。

浅葱　夢？

鈴木　バブルだよ。東京に出れば、全てが変わる気がした。実際変わる時代だった。すぐに弾けてしまったがな。

浅葱 バブルが弾けて詐欺師になったの？

鈴木 そんなところだ。同族食いき。同じくバブルに夢を見て、崩壊して、それでもすがろうとする同胞たちを食い物にしてきた。

浅葱 あの頃に戻れますよーってことか。

鈴木 そうやって騙してきた。愛する家族が戻ってきますよ、と。

浅葱 戻ろうと思わなかったの？ おじいちゃんは。

鈴木 戻れるものか。あそこに俺の居場所は既になかった。まあ悪いのは自分だけがな。

浅葱 私と一緒に戻る？

鈴木 なに？

浅葱 おじいちゃんはもう引退したって言ってたけど。最後にもう一回だけ、大きい仕事しない？

鈴木 ……何をさせるつもりだ？

浅葱 うまくいけば10億円。

鈴木 10億？

浅葱 そしたら沖縄で、一生2人でゆっくり過ごせる。私だって結婚するかもしれないし、家族が増えるかもしれない。

鈴木 バカ言え。

浅葱 そしてこれはある意味「正義」のお仕事。

鈴木 正義？

浅葱 これ、偉いでしょ？ 資料まとめたの。（書類を渡す。）

鈴木 NBC……。

浅葱 ね。おじいちゃんが7年前にやった仕事ってさ。NBCの子会社を利用したインサイダー取引をネタにしたんでしょ？

鈴木 よく、調べてるな。

浅葱 社員に全部罪かぶせて、その社員は自殺しちゃったって。

鈴木 初めてだったんだ。

浅葱 え？

鈴木 これだけ人を騙ってきて変な話だが、被害者が自殺したのは、初めてだった。

浅葱 そうなんだ。

鈴木 お前はまだないのか。

浅葱 多分、ないかな。結婚詐欺で騙されて自殺って、なかなか、ねえ？
鈴木 どうだろうな。「愛」の詐欺は浅葱が思ってるより、重いかもしれないぞ。

浅葱 まあ、でもさ、おじいちゃんが今回協力してくれてうまくいけば、これが最後になるわけだし。

鈴木 (資料を見て) ソクラテス・ストラテジー。

【音響・BGM】

浅葱 え？

鈴木 この高橋という男、自尊心が強く、相手の主張に聞く耳を持たない。ソクラテス・ストラテジー。つまり質問を繰り返すことでこいつに、自分で考えた結果だと思わせるのが有効だ。

浅葱 おじいちゃん？

鈴木 松尾という政治家秘書の女。こいつは自分に自信があるが、今まで自分が冒険してこなかったというコンプレックスが見える。カリギュラ効果。禁止されたりやってはいけないと言われることで、逆に興味が惹かれ、話に乗ってしまう。

浅葱 やる気になってくれたの？

鈴木 NBCの社内事情は多少把握している。私たちは、あいつらを監視する側、総務省のお役人になりすまそう。肩書きは、情報流通行政局 放送政策課だ。名前は…。(浅葱に目配せをする) 私もお前もそのままがいいな。

浅葱 え？

鈴木 お互い、偽名だろう？

浅葱 ……。

鈴木 汚い血の性だ。

浅葱 おじいちゃん。

鈴木 責めたりはしない。同じ穴のムジナ。だから。

浅葱 だから？

鈴木 この仕事が終わったら、教えて欲しい。お前の、私の孫の、本当の名前を。

浅葱 え？

鈴木 お前もまだ疑ってるんだろう？ 私が本当にお前の祖父なのか。
浅葱 ……まあ。

鈴木 私もその時は本名を伝えよう。バブルが崩壊して、私は鈴木稔になつた。沖繩に戻るならば、とよの前で名乗っていた名で戻りたい。

浅葱 それがおばあちゃんから聞いている、あなたの本当の名前と一致すれば、あなたは本物ってこと？

鈴木 そういうことだ。

浅葱 わかった。

鈴木 着替えはあるか？ この格好では、役人には見えんからな。

浅葱 ある、けど。

鈴木 用意がいいな。

鈴木 持ってきてくれ。あと髭剃りだ。

浅葱 う、うん。

鈴木、杖を投げ、服を脱ぐ。

浅葱 え？

鈴木 かわいそうに見えた方が得なことは、まあある。

浅葱 おじいちゃんが私のおじいちゃんかどうかはまだわからないけど、鈴木 木稔が凄腕の詐欺師っていうのは、信じてみることにした。

鈴木 まずは第一歩というわけだな。

【音響 BGM】

【照明・フラッシュ】

浅葱、着替えと髭剃りを渡して、一度去る。

○破 1

栗子浅葱以外の5人が舞台に錯綜しながら出てくる。

栗子が、出てくる。

栗子、錯綜しつつ

松尾↓輝奈子↓光希↓真崎↓高橋の順で挨拶。

浅葱が出てきて、浅葱に挨拶。続けて着替え終わった鈴木に挨拶。
音楽が止まる。

【照明…レッド】

全員後ろを向く。立ち位置はバラバラ。8人、同時に。

栗子 準備完了！

真崎 準備完了だ！

浅葱 準備完了でしょ？

鈴木 準備完了。

輝奈子 準備完了ね！

光希 準備完了です！

高橋 準備完了っつと！

松尾 準備完了ですかね。

音楽再開。

【照明…暗転】

○破2

【照明…地下】

渋谷NBC地下。

そこには1台のコンピュータ。

その周りに栗子、真崎、高橋、輝奈子、光希。

高橋 で、こちらが秘密保持の契約書になります。（書類を光希に渡す。）

光希 あ。

輝奈子 （光希の方向にある書類をとって）ありがとうございます。サインさせて頂きます。光希ちゃん、ここにサインを。

光希 は、はい。（栗子をチラッとみる）

栗子 横崎さん。

真崎 んー。

栗子 秘密保持の契約ってサインすると何かまずいことあるんですけどっけ？

真崎 特にないね。この場所や、ここでの取引を漏らすなつてことだから、別にこれにサインするだけで何か不利益を被ることはない。

高橋 はい。これはあくまで極秘に行くことですので、という意味だけです。

輝奈子 光希ちゃん！

光希 はい。

光希、サインをする。

高橋 ありがとうございます。では次にこちらの書類ですね。必要事項の記入をお願いできますか？ こちらで、LIMIT法人化の手続きを取ります。

口座もこちらで準備していますので。

輝奈子 高橋さん。

高橋 はい。

輝奈子 先日お話しさせていただいた通り、今回、我々に資金提供をしてくださいれば、我々は、今後NBCのスクランブル放送化を訴えることは控えます。

光希 え？

輝奈子 いいから。

光希 だって！

輝奈子 いいから！

高橋 どうされました？ 穏やかではないですね。

真崎 西田さん。我々の最終目標はNBCのスクランブル放送化でしたっけ？

光希 違います。スクランブル放送化は通過点です。

栗子 西田さんも、スクランブル放送化の推進をなぜLIMITがするのか、

疑問に持っていたはずです。

光希 そうです。けど。今までずっとそれを訴えてきたんですよ？

輝奈子 今はそういう時期ってだけ。

高橋 そちらの事情はわかりかねますが、資金を提供させて頂く以上、その部分に関しては。

輝奈子 はい。もちろんです。いいですよ？ リーダー？

光希 ……はい。

高橋 はい。そうして頂けるとありがたいです。

輝奈子　ですが、

高橋　　なんでしよう？

輝奈子　勘違いして頂きたくないのは、これは、あくまでスクランブル放送化に關してのお話しだということですよ。他の政策で御社とぶつかることがあっても、それを取り下げることはありません。

高橋　　対等だつて言いたいんですか？

輝奈子　は？

高橋　　僕と、対等に取引しようつて言うんですか？

輝奈子　直接的な言い方をされるなら、そういうことになります。

高橋　　圧力団体つてわけだ。批判しないから、金をくれと。

輝奈子　いえ、我々はあくまで、学生の、若者の思想を、世の中に広く伝えるための。

高橋　　建前はいいよ！

真崎　　高橋様、少々落ち着かれては？

高橋　　ま、いいでしょう。渋谷でのデモがなくなるだけで、だいぶ静かになりますしね。

栗子　　静かになりますかね？

高橋　　え？

栗子　　渋谷つて、ずっとうるさいじゃないですか。光に集まる虫みたいな街ですよね。命を燃やして光を求めて。

真崎　　そうかもしれませぬ。で、何がおっしゃりたいんですか、糸原さん？
（栗子をつねる）

栗子　　いた！

真崎　　いた？

栗子　　なんでもない！　なんでもないです。渋谷つていい街だなーつて話です。ですねー。

高橋　　よくわかりませんが、とりあえずこちらの書類を。

輝奈子　基本事項は私が書くから、あなたはサインを。

光希　　はい。

輝奈子、光希、書類記入。

高橋 テイツシュ配りってあるじゃないですか？

【音響…BGM】

輝奈子 はい？

高橋 雑談です。

輝奈子 はあ。

高橋 街中でテイツシュ配りをしてるのを、スルーした時に、罪悪感を感じるタイプか感じないタイプか。僕これで、結構他人のことがわかんと思ってるんですよ。

真崎 テイツシュ配りに罪悪感、ですか？

高橋 はい。見た所、横崎さんは感じないタイプですね。

真崎 そうですね。確かに、会釈もしません。

高橋 西田さんと糸原さんは、罪悪感を感じるタイプです。

栗子 はあ？

真崎 (栗子をつねる)

栗子 イテッ！

高橋 感じませんか？ 罪悪感。

光希 私は、感じちゃうかもしれません。受け取れなくてごめんなさいって。

栗子 私も、罪悪感、感じてしまいますかね。

高橋 北さんは、どちらでしょう？

輝奈子、書類を高橋に渡す。

輝奈子 感じませんね。それがテイツシュ配りの方のお仕事ですから。会釈は、しますよ。礼儀として。

真崎 ははは。私が礼儀知らずみたいじゃないですかー。

栗子 (ボソツと) まさにその通り。

真崎 (ボソツと) うっさい！

高橋 僕も、会釈はして、罪悪感を感じないタイプです。一番悪いタイプ。

輝奈子 悪いタイプ、ですか？

高橋 きっと心のどこかで、もしくは無意識下で、テイツシュ配りを見下し

ているんですよ。

輝奈子 そんなことは、ないと思いますが。

高橋 心の中では誰だっが一番になれますからね。

光希 あの。

高橋 为什么呢？

光希 高橋さんは先ほど、建前はいいとおっしゃいましたが、私は、その、若い世代の政治的な意思を世間の皆様に伝えていくことは、建前ではないと思っています。しかし、これほどまでに団体が大きくなっていけば、そこには様々なしがらみだったり、必要なことが出てきたり、かといって、大きくならなければ世間の皆様に声は届かない。

輝奈子 その通りですね。

光希 高橋さんは、このお仕事を通じて、何か達成したいことがおありですか？

高橋 ……あつたんじやないですかね？

光希 え？

高橋 僕だけではなく、ここにいる皆さん。昔はあつた。ぜひ、西田さんにもその思いを持ち続けて頂きたいものです。

栗子 (ボソツと) ティッシュ配り。

真崎 (ボソツと) ちよつと。

栗子 (ボソツと) 今、会釈しました。

輝奈子 (笑って) 西田光希は我々の旗ですからね、もちろんずっと持ち続けると思いますよ。

光希 あの。

輝奈子 で、法人化の後は？

高橋 はい。弊社からLIMIT様へ、所謂、架空の発注をさせて頂きます。輝奈子 なるほど。

高橋 ですので、LIMIT様から私共に受注の内容、こちらも架空ですが、の証明書を発行頂くと言う流れです。

輝奈子 承知しました。

光希 架空の？ 大丈夫なんですかそれ？

高橋 大丈夫です。

光希 どうしてそんなこと言い切れるんですか？

高橋 後ろ盾があります。

光希 後ろ盾。

真崎 後ろ盾とは？

高橋 この後ある方とお会いして頂きますが、今回の取引には政界の重鎮が
ついています。

光希 政界の、重鎮。

真崎 ちなみに、どなたでしょうか？

高橋 秘密保持契約を結んだとは言え、取引が成立するまではそれは申し上
げられません。

真崎 ……まあ、でしょうね。

高橋 さて、この関連書類もこちらでご用意しておきましたので、また必要
事項の部分にご記入をお願い致します。

輝奈子 わかりました。これも前以て言っておきますが。

高橋 「その政治家の言いなりにはならない。」ですね？

輝奈子 はい。

高橋 わかってますよ。あくまで信用のための手段です。

輝奈子 言いなりにはなりません、つながりができる事は我々にとってもプ
ラスだと考えていますので。

高橋 そうでしょう、そうでしょう。

光希 あの、架空発注とか後ろ盾とか、これって。

輝奈子 何？

光希 これって。

栗子 はい。犯罪です。

光希 え？

輝奈子 （一息ついて）連れてきた意味、わかった？

光希 ……。

輝奈子 やめても、いいけど？

光希 え？

輝奈子 あなた次第。最後に決めるのはあなた。

光希 ……。

高橋 ちよつと北さん？ ここまできてそれはひどいんじゃないですか？

輝奈子 決定はリーダーがすることですので。

高橋 そうは言いますが、僕はずっとあなたと打ち合わせを。
輝奈子 組織の決定権はリーダーですので。

高橋 そうですか……ならば、どうされますか？ 西田さん！

光希 いや、はい。えー、

そこへ鈴木、浅葱、松尾が現れる。

○破3の1

鈴木 やあやあこれはこれは、楽しそうなお話をされてますね皆さん。

高橋 松尾さん！ これは？ この方々は？

真崎 (ほぼ同時に) 松尾。

松尾 この方々は……。

鈴木 初めまして。突然失礼致しました。ご無礼をお許しください。私、総務省情報流通行政局放送政策課 課長の鈴木稔と申します。

浅葱 同じく放送政策課、磯部浅葱と申します。

高橋 総務省？

鈴木 いや、渋谷スクランブル交差点の地下からNBCに抜ける道があるだけでなく驚きですが、地下にこんなところがあったなんて。驚愕を隠せませんね。NBCに直接上がる道がないところを見ると、最後の最後、別の施設ですと言いつい逃れでもするつもりなのでしょう。

高橋 総務省の方が、なんのご用でしょうか？

鈴木 松尾さんからお伺いした話がとてもとても興味深かったもので、つい足を運んできてしまいました。

真崎 総務省の方とは言え、勝手に敷地内に入るのは問題なのでは？

鈴木 勝手？ 勝手ではありませんよ。突然ではありませんけれどね。松尾さんに案内して頂いたのでありますから。

真崎 松尾さん？

鈴木 ご存知ないですか？ かの岡田城太郎先生の私設秘書の方ですよ。松尾穂果さんですよ。

真崎 それは存じ上げません。失礼しました。

高橋 松尾さん！ 単刀直入に聞きましょう。なんです？ これは？

松尾 ……高橋さん、あなた、張られてたみたいですよ。

高橋 張られてた？

松尾 この場所と、取引。

高橋 ……鈴木さん、でしたっけ？

鈴木 はい。

高橋 ご用は？

鈴木 どうですか磯部さん？

浅葱 NBC子会社が学生政治団体に献金、大物政治家も関与。大問題だと

思います。摘発すべきかと思います。

鈴木 まあそうですねー。普通に考えたらその結論に至りますよねー。

高橋 普通に考えたら？

鈴木 松尾さん。

松尾 はい。

鈴木 お伺いしますが、この、えー、LIMITさん？ ですよ？ そち

らの方々。

輝奈子 はい。

西田 はい。代表の西田光希です。

真崎、栗子も頷く。

鈴木 はいはい。NBCの子会社さんが学生政治団体のLIMITさんに資
金援助。これって、岡田先生はご存知なんですかねー？ どうでしょう松尾
さん？

松尾 ……。(スマホに何か打ち込む)

浅葱 どうされました？ 松尾さん。

真崎 ちよっと待ってください。

鈴木 はい？

真崎 先ほど高橋さんは、政治家の後ろ盾があるとおっしゃいました！ で

すが、この一件をその秘書しか知らないとなると、これは一体どういう事
ですか高橋さん？

鈴木 ですよー。おかしいことになりますよねー。だからお伺いしてるん
です。岡田先生は、この一件をご存じなんですか？ 松尾さん？

松尾 ……。

輝奈子 後ろ盾があるというのは、嘘なんですか？

松尾 ……。

栗子 ここ、取調室とかじゃないんで、黙秘とか意味ないと思うんですけど。

放つといたら、この総務省の人たちその政治家先生に直接話聞きに行くだけだと思えますよ。

松尾 ……。

高橋 鈴木さん。

鈴木 はあい。

高橋 松尾さんが喋らない以上、その糸原さんが言ったように、直接聞いてみるのがいんじゃないですか？

鈴木 そうですねー。そうしたらわかるんですけどねー。どう思います？ 磯部さん？

浅葱 どうせ話さないのであれば、すぐに確認しに行くべきです。私、行きましょうか？

鈴木 ですよねー。普通は。普通は、そうすると思います。ねえ、高橋さん。

高橋 ……普通は。そうですね。なるほど、話は簡単ですね。分け前をくれと、そうおっしゃりたいんですね？

鈴木 いえいえ、そんな事は。ただ、総務省としてはですよ。岡田先生に恩を売っておくのも悪くないかと考えているだけですよ。

高橋 ……。

松尾 ……。(スマホに何か打ち込む)

鈴木 あら、皆さん静かになってしまいましたねー。

浅葱 鈴木さん、あれ。

鈴木 あら、綺麗なお月様だ。古代エジプトにおいて月は、失ったものを回復させる象徴だそうですよ。

浅葱 この部屋にもそういった意味があるんですかね。

鈴木 どうでしょう。でも、いい芸術作品じゃないですか。

高橋 ……鈴木さん、磯部さん、このまま黙っていても埒があきません。腹を割って話しましょう。鈴木さん、磯部さん、お二人に1億。均等に分ければ5000万円ずつ。これでいかがですか？

松尾 高橋さん？

高橋 最悪の事態は避けなければいけません。お互い、利益が多い道を選びましょうよ。

鈴木 えー、これはこれは。申し訳ない。別にお金をせびってるわけじゃないんですよ。ねえ、磯部さん。

浅葱 鈴木さん、もしかして受け取る気ですか？

鈴木 受け取ったら、私にも弱みができてしまいますからねー。

高橋 ……7500万。

鈴木 久々に岡田先生の激昂したお姿を拝見できると思うとドキドキしますね。

浅葱 そんなことを楽しみにするのは鈴木さんくらいです。

鈴木 そうですかー？

高橋 1億！ 1億ずつです！ それ以上は無理です！ それで無理なら、なんでも勝手にしてください！

鈴木 ……自動販売機でジュースを買って、お釣りを取ろうと思ったら、取り忘れの百円玉があつて、「ああ、ラッキー」って思うことありません？ 磯部さん。

浅葱 ごく稀に。ネコババですけど。

鈴木 そうですね。ネコババです。さて、高橋さん、よろしいでしょう。それで、手を打ちましょう。

高橋 ありがとうございます。ただ……。

鈴木 ただ？

高橋 こちらから直接ご入金すると、足がついてしまいます。今回動かす資金は10億。それをまず、LIMITさんの口座に移動します。

鈴木 そこからいただくというわけ？

高橋 違います。これでもまだ足がつきます。LIMITさんにはこの10億で古屋悌（ふるやすなお）氏の絵画等アート作品を買って頂きます。

光希 古屋悌。

輝奈子 新進気鋭の注目アーティストですね。

鈴木 古屋悌氏の作品を？

高橋 そしてお二人には、1億円分ずつ、古屋悌氏の作品を100万円で買って頂くのです。

鈴木 100万円で？

高橋 仮のお金です。タダで差し上げる事は出来ませんので。

鈴木 ほう。

高橋 そして、それを時価で売却していただければ、足がつくことなく、1億円が、いえ、売却相手次第では、それ以上の金額がお手元に入るとい流れになります。

鈴木 なるほど。どう思いますか磯部さん。

浅葱 極めてバレにくいネコババかと思えます。

鈴木 ネコババではないんですよ。磯部さん。

高橋 いかがでしょうか？

鈴木 松尾さん、いかがでしょうか？ 岡田先生を裏切り続ける形になります

が？

松尾 ……覚悟はしております。(スマホに何か打ち込む)

○破3の2

栗子 あの！

鈴木 はい、なんででしょう？

栗子 勝手に話進めてますが、うちのリーダー、まだ10億もらうって決めてないんですけど！

輝奈子 そうです。そもそもこのお話通りに行けば、我々が受け取る金額は8億に減額されているじゃないですか。黙って承諾しろとおっしゃるんですか？

高橋 そうでしたね。

鈴木 それは話を進めていただかなければ。

高橋 西田さん、いかがですか？

光希 いかが。

高橋 減額については、申し訳ありません。ただ、総務省の方々の動き次第では、あなたたちだって危ないんです。そこは考えて頂きたい！

光希 15億。

高橋 ……は？ よく聞こえませんでした。もう一度おっしゃっていただけますか？

光希 15億。

鈴木 これはこれは。面白いことをおっしゃっていますね。

高橋 15億？

輝奈子 光希ちゃん。

光希 輝奈子さん。さっき言ってくれましたよね。リーダーは私だって。だから私、決めます。

輝奈子 わかった。全部言っごらん。

光希 このままでは高橋さん、あなたがリスクを負ってなさすぎます。この10億はあなたのお金ではないし、総務省の方々にお支払いする金額も我々の資金から出る形になっています。

高橋 それは、足がつかないようにするために。

光希 あなたも、リスクを犯してください。

高橋 リスク？

光希 それが15億です。もともと動く予定だった10億。岡田議員から申し入れがあった、別の議員にも渡すことになった、LIMITとの交渉でうせざるを得なかった、その辺の理由はお任せします。ただ、NBC本社を説得して追加で5億。計15億。私たちに用意してください。

高橋 5億追加で……。

光希 そうしたら、そのうちの2億はあなたに。1億は松尾さんに差し上げます。渡し方は、その美術品購入でいいですよ？ そして総務省の方々に1億ずつ。私たちが元々の10億。これで丸く収まります。

栗子 あらスツキリ！

真崎 ばか！

高橋 何を。

磯部 高橋さん、そうして頂けますか？

鈴木 磯部さん？

磯部 私、上司の鈴木に比べて、やや慎重です。小心者とも言えるかもしれませんが。西田さんと同じく、私も高橋さんと松尾さんのリスクについて考えていました。どうも釈然としませんが、西田さんのおっしゃる形になれば問題ありません。

鈴木 なるほど。言われてみれば。赤信号みんなで渡れば怖くない、理論で

すねー。いやーでも、ここでリスクは取れませんかでしょう、ねえ松尾さん。

松尾 (スマホを見て) ……。変わりません。

鈴木 はい？

松尾 お二人が来た時点で私のリスクは何れにしても高い。でしたら、私は西田さんの意見に賛成です。ただ、高橋さんが15億本社から引っ張れるかは、別のお話ですが。

高橋 ……待ってください。5億ですよ？ わかってますか5億。皆さん感覚がおかしくなってるんじゃないやありません？

栗子 5億あつたら何買えるかなー。

真崎 宝くじよりもらえるよね。

高橋 そんな話があったいんじゃないやありません！

真崎・栗子 すいませーん。

鈴木 高橋さん、ちなみに、LIMITさんが、この支援を断つたら、どうなるんですか？

高橋 ……どうもしませんよ。

鈴木 どうもしないとは？ 具体的にどういうことですか？

真崎 元に戻るだけでしょうね！

鈴木 元に戻る？

真崎 岡田議員に10億が渡る。

光希 岡田議員に？

真崎 岡田議員がこの件を知らない、とすれば、LIMIT、つまりうちへの資金援助は、NBCそしてNBCテックの独断ですよ？ いや、松尾さんもいるということは、松尾さんとNBC、NBCテックの共謀という「カタチ」でしょうか。ねえ、松尾さん！

松尾 ……。

真崎 ま、何も言わないか。岡田議員に10億が流れることは秘書としては伏せておきたい、でしょうしね。

鈴木 なるほどなるほど。この10億は元々、岡田議員に流れる予定だったということですかね。

真崎 そういうことです。

鈴木 ですから、磯部さん？ どうです？ 総務省としては？

浅葱 NBCから政治家への献金。これも大問題です。

光希 待ってください！ どういうことですか？ 岡田議員に渡す予定の10億を私たちが手にしたら、岡田議員からしたら、私たちは横入りの泥棒じゃないですか！ もしそんなことしたら私たちは。

高橋 だから、ずっとそういう話をしてるんですよ！

光希 え？

高橋 岡田議員に流す予定の10億をあなたがたに渡す。それが私と北さんの間で決まってることなんですよ！

松尾 ……（スマホに何か打ち込む）。

光希 輝奈子さん？

輝奈子 いいの。それでうまくいく計画になってるから。

光希 計画？

鈴木 元に戻るとすれば。我々の1億は？

真崎 渡すとなれば、本社から最低でも2億追加で引つ張る必要がありますね。

栗子 結局本社から引つ張んなきゃいけないじゃん。

高橋 元には、戻らない。

真崎 なぜ？

鈴木 元には戻らない。岡田議員に10億は渡らないということですか？

高橋 そうです。元々、今回の件で岡田議員には失脚して頂く予定だったんですから。

真崎 どうやって？

高橋 松尾さんがいますから。

真崎 何かリークするネタが？

松尾 ……。

光希 それが計画ですか？

輝奈子 まあ、そんなところね。

高橋 とにかく、岡田議員につくという選択肢は僕の中にはないんですよ。トカゲの尻尾は切られる前提なんです。だからしつぽの逆襲。だから。

鈴木 だから？

高橋 L I M I Tさんの代わりを見つけてます。

輝奈子 私たちの代わりを？

光希 別の学生政治団体ってことですか？

輝奈子　いま私達ほどの規模と勢いの団体はそうそうないかと思えますけどね。
高橋　どこか探しますよ。

鈴木　それで本社が納得するのですか？

松尾　高橋さん。LIMITさんの代わりを探してる暇はあるんですか？
岡田先生に渡る予定の10億が動かなければ、本社も、岡田先生もすぐに動きません。そしたら、逃げきれません。

高橋　……。

鈴木　本社と岡田先生に言い訳をして、代わりを見つけてから、裏切るのと、本社からもらう金額を上げると、どちらが大変なのでしょうかね？

高橋　……わかりました。

光希　決めたんですか？

高橋　どちらにせよ。本社と話をする必要があります。少々お時間を頂けませんか？

光希　……こちらで、お待ちします。

高橋　ここで？

光希　電話一本で済みますよね？

鈴木　では我々もお待ちしましょうかね。

高橋　……わかりました。すぐ戻ります。

高橋、去る。

鈴木　待つとは言いましたが、一旦我々もうまく今日のことを報告しに少し戻りましょうかね。磯部さん。

浅葱　はい。

鈴木　では皆様、少し失礼します。

鈴木、浅葱、去る。

【音響…着信音】

松尾　はい松尾です。……はい。わかりました。行きます。皆さん、すいません。私も少し出ます。

真崎　いいんですか？

松尾 はい？

真崎 こんな極秘の場所に学生政治団体のメンバーだけ置いていつて。

松尾 そう言われましても、私もNBCの人間ではありませんので。失礼します。

松尾、去る。

【音響・BGM】

○破4の1

真崎 んー。なんだかねえ。まあ。せっかく自由にさせてもらったんで、物色させてもらいますかね。

栗子 物色？

真崎 わざわざこんな場所にパソコン1台なんておかしいでしょ。何かまだ隠してる。

栗子 探して見つかるようなもの、置きっぱなしで、出て行きますかね？

真崎 それもそうだけど、何もしないよりは、ってねー。

真崎、部屋の物色を始める。何やら仕込んでいる様子。

輝奈子 光希ちゃん。

光希 はい。

輝奈子 どうしちゃったの？ すごいね。別人みたい。

光希 え？

輝奈子 びっくりしちゃったよ。15億なんて言い出した時は。

光希 なんか無我夢中でして。

輝奈子 糸原さんのおかげなのかな？

栗子 いえ、私は何もしてないですよ。一緒に飲んだだけです。友達として。

輝奈子 へえ。

真崎 その子の才能なんですよ。

輝奈子 才能？

真崎 知らず知らずのうちに、他人に一步を踏み出させる。そんな才能を持

ってるんですよ。その子は。

栗子 いや、そんなじゃないですよ。

輝奈子 いやー、あるんじゃないですかね？

光希 私も、あると思います。

栗子 あ、ほんとですかー？

光希 はい。

輝奈子 光希ちゃんの変わり様、なんていうかな、アニメとかでいう、覚醒？
っていうの？ そんな感じ。急に交渉力・政治力のパラメータがどーんつて
さ。

光希 自分ではよくわかんないです。

輝奈子 次はあれだねー。

光希 あれ？

輝奈子 政治家にもっと食い込む。

光希 え？

輝奈子 5年後10年後、そしてもっと先を見ないとダメだよ。

栗子 北さんは、何を見据えてるんですか？

輝奈子 私？

光希 私も、それ気になります。

輝奈子 気になる？

光希 はい。

輝奈子 私はね、光希ちゃんと共にある。

光希 え？

輝奈子 軍旗手ってね、

光希 軍旗手？

輝奈子 戦争で旗を持つ人。

光希 旗を。

栗子 なんで軍旗手？

輝奈子 とつても死亡率が高いんですよ、軍旗手は。武器も持てないですしね。

でも、軍旗、つまり象徴は、兵士の命よりも重い。光希ちゃんは、旗。私は

軍旗手。西田光希という象徴を守るために、私はいる。

光希 旗と、軍旗手。

輝奈子 あなたはきつと、世界を変える力を持つてる。

光希 そんなこと。

真崎 「勅命下る 軍旗に手向かふな」

輝奈子 なんですか？

真崎 二・二六事件でアドバルーンに書かれた文字です。

栗子 始まっちゃった。

輝奈子 アドバルーン？

真崎 青年将校たちに警告するためにね。「天皇から命令が出たぞ。お前たちのやっつてるとは反乱だ」。って。二・二六事件で青年将校たちは、天皇中心の、つまり旗のために戦っていたはずでした。しかし、その旗に裏切られてしまった。

光希 私が、裏切るってことですか？

真崎 そんなことは言ってます。あなたはそのまま。旗は旗。動かすのは人。その行動が果たして旗のためになっているのか、ってことです。

輝奈子 私に、言ってるんですね。

真崎 政治の、いや政治だけじゃありません。世界とは、本当に汚くて醜い。

西田さんには西田さんの、もっと別のやり方があったんじゃないかって思いますね。

輝奈子 別のやり方？

真崎 ま、その別のやり方が何かはわからないんですけど。

輝奈子 だったら。

真崎 だったら余計なこと言わないで、ですよー。でも時々思いませんか。ね。もっと別のやり方があったんじゃないか、って。あ！

輝奈子 別のやり方って言ったって。

栗子 この人は時々そういうわけのわからないことを言うんですよ。

真崎 ああ、ちよつと！ 雑談終わりです。

栗子 え？

輝奈子 (同時に) え？

真崎 (地面を指差して) くり、糸原要子！ ここ！ ここ見て！ 跡があります。

栗子 跡？

真崎 ほら見て、ここ。

光希 ありますね、跡。

輝奈子 何か、重いものを動かした跡？

真崎 ……賭けに出るか。

栗子 え？

真崎 いいですか、糸原要子。ねえ、くめはらようこ。ここから先、俺のやること。知らんぷりしてね。実際知らないわけだし。

栗子 は？

真崎 糸原を、守るためだから。いいね？

栗子 いやです。

真崎 なんで？

栗子 時期じゃないです。やめましょう？

真崎 やめないよ。

栗子 ……死んでもやるってやつですか？

真崎 まさにその通り。

栗子 どうして？

真崎 どうしても。

輝奈子 あの、あなたた達は。一体。

【音響…BGM】

真崎 先日お話しした通り、個人投資家仲間ですよ。ねえ？

栗子 はい。

真崎 先日、スクランブル交差点で、旗の輝きに歓喜した、ね。一旦戻る。

部下に指示を出さなきゃ。

栗子 指示？

真崎 作戦名は。「オペレーションM」だ。

栗子 M？

光希 どういう意味ですか？ オペレーションMって。

真崎 まさ。いや、みつきだ！

栗子 あ、そういう、痛い感じの。

真崎 うるさい！

輝奈子 大丈夫？ 「オペレーションみつき」

光希 多分。

4人、静止。音楽は鳴り続ける。

○破4の2

下手に高橋・松尾が現れる。

【照明…下手スポット】

高橋 総務省に張られてたなんてついてない！

松尾 何事もそううまくはいかないってことですね。

高橋 冷静なこと言ってる場合ですか！

松尾 起こってしまったことは仕方ないじゃないですか。

高橋 5億。本社から引っ張ります。

松尾 できるんですか？

高橋 総務省の奴らのいい気にはさせません。5億引っ張って、共犯者にし
てやりますよ。

松尾 でもどうやって5億。

高橋 金を先に動かします。

松尾 どうやって言い訳を？

高橋 父になんとかしてもらいます。

松尾 NBCの高橋役員にですか？

高橋 父も巻き込んでやりますよ。

松尾 ……。

高橋 軽蔑しましたか？ これだけの金が動くんです。父も動かざるを得
ないでしょう。バカ息子の尻拭いは慣れてるでしょうしね。

松尾 いいんですか？

高橋 何が？

松尾 お金以上に今回あなたはお父様から離れるために。

高橋 先日言いましたよね？ 僕は自分の能力なんて信じてないんです。ず
っとこうして生きてきたんです。最後までそうやって逃げきりますよ。

松尾 高橋さんが良いなら私は構いませんが。

高橋 総務省のバカどもは美術品購入の話に乗ってきました。騙す相手が増えただけ。リスクも増えましたが、5億・5億が7億5千万・7億5千万に増えたんです。しつぽの逆襲は続きますよ。

【照明・上手・下手スポット】

上手に鈴木・浅葱が現れる。

浅葱 おじいちゃん、すっごい！

鈴木 まだ楽観はできん。ここからだ。

浅葱 だって見事に思う壺じゃん！

鈴木 お前の下調べが優秀だった。

浅葱 いやあ、照れるな！。

鈴木 もう2段階だ。高橋は15億をLIMITに送金する。LIMIT

はその金で古屋梯の芸術品を15億分買う。

浅葱 高橋はその美術商から15億を受け取るつもりだったみたいだけど、

残念その美術商はもうこちら側！

鈴木 金で動くやつは、より金を払えば、動かせる。リスクが変わらないな

ら、金を多くもらえる方を取る。

浅葱 高橋の見下し癖が悪い方に出ちゃったね！

鈴木 美術商に入った金は、奴らに入る前に消える。美術商は5億とともに、

いなくなる。10億を我々に残して。金で動くやつにケチなそぶりを見せる

のは、悪手だ。

浅葱 おじいちゃん、やっぱすっごいね。

鈴木 無駄に年食ってるだけさ。

浅葱 役者とか、向いてそう。

鈴木 そんなものを夢見た時代もあった。

浅葱 え？ 東京出たのって、それなの？

鈴木 昔の話さ。

浅葱 でもさ！ バッチリじゃなかった？ 私たちのコンビネーション。

鈴木 汚い血の繋がりがだな。だが、気を抜くな。まだ魚は餌に食いついただ

け。うまくルールを引いてやらねば、逃げるだけだ。海中にいるうちは、勝

利とは言えん。陸に出して、勝利だ。

浅葱 そうね。ねえ、おじいちゃん。
鈴木 なんだ？
浅葱 勝利の乾杯はもちろん。
鈴木 オリオンビールさ。

【音響…BGM盛り上がる】

【照明…暗転】

○破5

【照明…地下】

パソコンの周りに集まる8人。

高橋、パソコンを操作。

高橋 これで今、15億がLIMITさんの口座に送金されました。

光希 確認します。

輝奈子 (スマホを確認し) はい。確かに。先ほど頂いたうちの口座に振り込まれています。

高橋 では続いて、古谷悌の美術品購入ですが、こちらもあり合いの美術商に既に話を通してありますので、こちらにサインを。(書類を渡す)

輝奈子 (書類を見て) なるほど。美術品がここに書いた住所に届いてから、この人に送金すればいいんですね。

高橋 はい。そして、こちらが。(書類を出す)

鈴木 (書類を取り上げる)

高橋 あ。

鈴木 私たちが100万円でLIMITさんから、2億分の品を購入する契約書ですね。

高橋 そうです。僕と松尾さんも同じ方法で、LIMITさんから美術品を購入します。ご記入を。

書類に記入する鈴木・浅葱と輝奈子、光希。

真崎 よく本社から5億引っ張れましたね。

高橋 まあ、割と顔が効きますので。

真崎 へえ。

鈴木 素晴らしい人徳と人脈をお持ちということじゃありませんか。いや、素晴らしい。

栗子 要するにコネ、ね。

鈴木 コネ、素晴らしいじゃないですか。コネ、という言葉はどうしてこうも響きが悪いんでしょうかね。コネクションですよ。コネクション。繋がります。大切じゃないですか、人と人との繋がりが。

栗子 親の七光り。

鈴木 大切ですよ。親の七光り。ねえ松尾さん。

松尾 はい。政治の世界は、多くがそれですから。

鈴木 少し勉強すればわかりますよ。歴代の首相の血のつながりやらが。

浅葱 私、歴史苦手なんですよね。

鈴木 古くを遡れば、明治維新です。薩摩長州による革命。

真崎 二・二六事件とは違って成功したクーデター。

鈴木 おや、あなたも歴史好きですか？

真崎 クーデターマニアです。

鈴木 クーデターマニア？

栗子 なんですかそれ。

真崎 あなたがそれ言いますか。

鈴木 そのクーデターマニア様は明治維新成功の要因はなんだとお考えですか？

真崎 結局、「旗」をどちらが持つか、ということでしょうね。

鈴木 旗を。

真崎 では、この現代において「旗」とはなんなのかって話ですよ。

鈴木 なんなんでしょうか。

真崎 第二次世界大戦が終了後、日本はアメリカの統治下にありました。

鈴木 旗はアメリカだと？

高橋 旗は、(パソコンを叩いて)これ。お金でしょう。思想は大事かもしれませんが、結局、これですよ。ご記入、終わりましたね。ありがとうございます。

鈴木、輝奈子、高橋に書類を渡す。

真崎 旗は「世論」ですよ。

鈴木 世論。

真崎 そして世論を動かすのは、マスコミです。

輝奈子 まあ、そういう側面もあるかもしれないね。

浅葱 テレビの時代は終わったなどと言いますが。

真崎 まだまだその力は強い。ネットの時代とは言え、まだ強いのはテレビです。

栗子 横崎さんってそんな考え方だったんですね。意外です。

真崎 逆方向を推し進めてきたからこそ、テレビの力を痛感するってもんさ。

光希 逆方向？

真崎 ネット好きなもので。

高橋 まあ、旗はなんだったいいですよ。とにかく、こちらで本日の契約は終了です。あとは後日、美術品が届きますので。

光希 ありがとうございます。

輝奈子 今後ともぜひ、よろしくお願い致します。

高橋 どうなるでしょうね。

浅葱 ありがとうございます。

鈴木 いやあ、良い1日でした。

栗子 じゃあ、解散、ですかね？

高橋 そうですね。

輝奈子 じゃあ光希ちゃん。

光希 はい。

真崎 いやあ、これで、無事、契約終了というわけですか。

輝奈子 そうなりますね。

高橋 どうかされましたか？

真崎 今、まさにNBCの隠し金が、LIMITに流れ、総務省に流れたわけです。そしてそれは元々は岡田議員が受け取る予定だった10億。

鈴木 (笑って) 我々の悪事を2行にまとめたような感じですねー。

高橋 まとめはいいりませんよ。お金だけ残ればいいんですから。

真崎 さて、どうでしょう。

浅葱 どう言う意味でしょう？
真崎 ねえ、松尾さん。もうやめませんか？
松尾 は？ 何をでしょう？
真崎 松尾穂果さん、岡田城太郎議員の私設秘書さんです。
鈴木 先ほどから、やたらまとめたがりますねー。
真崎 ええ、これはまとめです。ねえ松尾さん。
松尾 何を、おっしゃりたいんですか？
真崎 改めまして、初めまして。私、NBC報道局ニュース制作センターメ
ディア展開部の真崎慎一郎と申します。
栗子 真崎さん！

間。

【音響・BGM】

光希 NBCの、方だったんですか？
高橋 待つて待つて、おかしいでしょうそれは。
鈴木 これはまた、新しい展開ですか。
浅葱 そうみたいですネ。
栗子 いや、これは。
真崎 そうです。NBCのプロデューサーの真崎です。
高橋 NBCの社員が紛れ込んでいたとは驚きです。あなたもあれですか。
分け前を寄越せと？ だったら送金前に。
真崎 バカにすんなよ。
高橋 は？
真崎 松尾さん、猫をかぶるのはやめましょう。
松尾 おっしゃっている意味がよく。
真崎 あなたは岡田議員側の人間ですよ？
松尾 ……はい、そうですが。
高橋 今日までは、ですけどね。これから松尾さんは岡田議員を裏切って。
真崎 そんなことだと思いますか？
高橋 は？
真崎 しないですよねー！

松尾 何を。

真崎 もうやめてしまいました。昔、岡田議員の秘書だった人に聞いたことがあります。岡田議員の秘書は、常にGPSを持たされ、行動の一部始終が監視されていると。岡田議員は自身の悪評をよくご存知だ。だからこそ身内に裏切られないように管理を徹底する。とても裏切れるような相手ではありません。

松尾 何をおっしゃって。

高橋 おい、その話！

真崎 岡田議員派の松尾さんがなぜみすみすこんな真似を許しているか。不思議ですよー。でも、不思議じゃないんです。それは、LIMITが岡田議員と繋がっているから。

高橋 なに？ LIMITが？

光希 え？ 私？

輝奈子 繋がってるも何も今こうやって。

真崎 これ。

真崎、写真を取り出す。

真崎 北さんと岡田議員の密会現場写真です。

栗子 そんなのいつの間に。

光希 輝奈子さん？

輝奈子 それは。

真崎 そしてここに松尾さん、あなたも写っています。

高橋 そんな。調査会社からはそんな話……。

真崎 そっちにも岡田議員の息がかかってるんでしょう。

高橋 だとしたら。松尾の親の話も。

真崎 松尾さんの親の話？

高橋 この人の親は生活保護の不正受給を。

真崎 生活保護の不正受給？

高橋 国を騙してる詐欺師だと。

鈴木 それはあれですね。政治家秘書としては痛い情報ですね。が！

真崎 弱みとして嘘の情報を掴まされた可能性がありますね。

高橋 な。

鈴木 そうでしょうね。

真崎 岡田議員の周辺を探ろうとして、他人に頼れば、必ずその話は岡田議員に行く。それくらい根を張ってるんですよ。あの政治家先生は。

鈴木 向こうの方が一枚上手というやつですね。

松尾 待ってください。あまりに妄言が過ぎませんか？ いくらNBCの報道局の方だからって。

真崎 妄言？ 妄言じゃないですよ？ 松尾さん。私、千葉にあるあなたのご実家も訪ねてますから。

また写真を取り出す真崎。

栗子 そこまで準備を。

真崎 生活保護の不正受給？ 必要ない必要ない。こんな立派なおうちに住まわれて、ねえ。

高橋 松尾さん！ これはどういうことですか？

松尾 ……。(スマホに何か打ち込む)

真崎 総務省の方に問い詰められて黙ってたでしょう、この人。それはイレギュラーなはずですよ。今こうやって私に問い詰められていることもイレギュラー。口を開きはしませんよ。

松尾 ……。

高橋 松尾さん！ この写真！ どういうことですか！ ずっとそうやって黙ってるつもりですか？

松尾 ……契約は終了しました。私は失礼しようと思いません。

高橋 待って。

鈴木 (同時に) 待ってくださいよー。この件が岡田議員に筒抜けだとしたら、ねえ磯部さん。

浅葱 単に我々は弱みを握られただけになる可能性がありますね。本当に今LIMITさんの口座に15億が？

輝奈子 (スマホを見せて) ほら、入ってますよ。ちゃんと。

浅葱 確かに。入っているみたいですね。

鈴木 いや、信用できません。このままだと我々がお金を手にすることもな

くなくなってしまわないですか？

松尾 知りません。

鈴木 一緒に写っていたというあなた。どうですか？

輝奈子 ……。

真崎 北さんもだんまりですか？

光希 ……輝奈子さん。

輝奈子 写真の通りですよ。岡田議員と繋がりは、ありました。だって、もう調べてますよね真崎さん。

真崎 何をです？

輝奈子 父のこと。

真崎 あら察しがいい。ええ。まさに私が岡田議員の秘書の方がどれだけ監視されてるか、それを伺った人物こそが、あなたのお父さんなのですから。

輝奈子 テレビを作らないテレビプロデューサー。

真崎 お。

輝奈子 昔、父がそんな話をしてたのを思い出しました。面白い人に会ったと。

真崎 そりゃ光栄ですね。

輝奈子 目的はなんですか？

真崎 すぐにわかります。

高橋 松尾さん！ 北さん！ どうなるんですか？ 岡田議員の企みはなんですか？

松尾 (スマホを見て、ため息をつく。)

鈴木 なんのため息ですか？ 観念のため息には見えませんでした。

松尾 どうもなりませんよ。L I M I Tさんの活動の背景には岡田先生がいて、L I M I Tさんに元々活動資金を流す予定だっただけです。NBCから10億、岡田先生へ。何も変わってません。その10億の使い道が、L I M I Tさんだっただけです。L I M I T支持層を取り込むための10億。そこに総務省の方が首を突っ込んできたので、2億は払ってあげましょうか、と。なっただけです。

鈴木 急にペラペラ喋りだしましたね。

真崎 認めるんですね？

松尾 認めるも何も、簡単に想像できることです。

真崎 なら初めから話せばよかったのでは？

浅葱、松尾からスマホを奪う。

松尾 あ！

浅葱 (スマホを見て) はい。この人ずっと岡田議員と繋がってましたー。追加の5億の話が出た時も、高橋さんがもう潮時だから、これを機に切ろうという話になってたみたいです。岡田議員は失脚しない。高橋さんは岡田議員から真実を追求されて3億を手放すことになる。そしてその3億は岡田議員へ。つまり岡田議員は2億で総務省の弱みを握り、10億をLIMITさんに流しつつ、自分も3億を得て、その責任は全て高橋さん、とする予定だったみたいです。

松尾 何するんですか！(スマホを奪い返す。)

鈴木 あらあらこれは穏やかじゃないですねー。

真崎 ペラペラ喋り出したのも、指示ってことですか。もう契約書類は交わしているし、高橋さんにはもうどうすることもできないから、教えてしまえ。そういうことですか。

高橋 松尾さん！もしこの人が言ってる通りなら。

松尾 一応言っておきますが、契約書、破ったりしても無駄ですからね。

高橋 え？

松尾 証拠隠滅にはなりませんし、それに今すでに15億はLIMITさんの口座にあります。資金のコントロール権はこちら側にあるということです。

高橋 あああああああ！(自分のももを叩く)

松尾 暴力はやめましょうよ。

鈴木 どうやら全て岡田先生の手のひらの上のようですね。

浅葱 そのようです。

真崎 高橋さん。

高橋 なんですか！

真崎 あいつらに一泡吹かせてやりたくないですか？

高橋 は？

真崎 私も岡田議員には個人的に恨みがありましたね。

高橋 恨み？

真崎 面識はないですよ。ただね、よくしてくれた先輩が昔、今の高橋さんと同じように、使い捨てにされたことがあります、ね。

栗子 亡霊。

真崎 まさにその通り。お告げかなと思っつき。

松尾 そうだったんですね。それは、かわいそうに。

真崎 くだらない同情はよしてください！ 上っ面だけの同情なんていりませんので。

松尾 生きるための術ですよ。

光希 ねえ、輝奈子さん、私。

輝奈子 見てるだけでいいって言ったでしょう？ あなたは十分やってる。

光希 全然、わかんないです。

鈴木 真崎さん？ 先ほど一泡吹かせると。

高橋 そうですよ！ 何ができるっていうんですかあなたに。

真崎 俺はテレビ屋さんだからねー。

栗子 真崎さん、やめましょう。

真崎 やめるわけないでしょ？ さあ、寄ってらっしゃい見てらっしゃい。

真崎、壁の渋谷写真を1枚剥がす。

真崎 真崎慎一郎。最初で最期のテレビ番組です。(剥がしつつ残り2枚。計3枚を剥がす。)

【音響…BGM】

光希 え？ これって。

栗子 隠しカメラ。

高橋 カメラ？ どういうことですか？

間。

真崎 準備になかなか苦労したもんですよー。電波ジャック。俺なりのクーデターです。俺なりの二・二六事件とでも言いますか。先ほどから、緊急生放送でお届けしております。

鈴木、浅葱、輝奈子、カメラを塞ぐ。

真崎 無駄ですよー。3台だけじゃないんで。スイッチャーと放送は私の信頼できる部下がやってくれてます。これも準備に苦労したなー。

栗子 何やってるんですか真崎さん！

真崎 落ち着いてくださいよ糸原さん。く・め・は・ら・さん。

栗子 くめはら。

松尾 ……。(スマホを見る)

鈴木 いつからですか？

真崎 はい？

鈴木 いつから放送が？

真崎 みなさんが席を立たれて戻ってきてからずっとですよ？

浅葱 この場所と私達の顔が今流れてるってことですか？

真崎 その通りです！

輝奈子 全員、終わりにしたってことですね。痛み分け、どころじゃありませんね。

高橋 (笑って) どうせ、トカゲの尻尾だったんだ。仲間が増えて嬉しいですよ僕は。

間。

真崎 さて、ここから先はどうせみなさんお話にならないでしょうし、これから話すこと自体、今までの話とは違い、確証のない話です。信じる信じないは、国民の皆さんがご判断いただければと思います。

光希 なんの話をするつもりですか？

真崎 この部屋を調べていたところ、大量の何かが運ばれた形跡がありました。それに関する私の推測です。

栗子 推測？

真崎 第二次世界大戦後、日本は混乱の時代でした。その時代、日銀地下金庫に、大量の貴金属やダイヤモンドなど、戦時中に備蓄された資産が保管されてきたそうです。

鈴木 また歴史の話ですか？

真崎　そうです。当時日本はGHQ、マッカーサーの統治下にあった。そのGHQ経済科学局局長だった少将ウィリアム・マーケット。彼がその日銀地下金庫に調査、押収に訪れました。そして莫大な資産を手に入れた。

鈴木　聞いたことがある話ですね。

真崎　GHQの管理下に置かれた押収資産は、戦後復興と賠償に費やされたと表向きにはされています。が、その資金の流れには不透明な部分がありました。この消えた大量の資産のことをマーケットの名をとって、「M資金」と言います。

光希　M資金。

栗子　そのM資金が、NBCの隠し金なんですか？

真崎　確証はないさ。

鈴木　でもっともらしい。

真崎　そう。その話と時を同じくしてGHQの民間情報教育局が公共放送NBCの名称を決定。東京大空襲で焼け野原だった渋谷に地下街を作ることも決定。地下街ができる頃には、NBC東館。つまりこの真上の着工が始まりました。加えて岡田議員は外務大臣歴が長い。

光希　岡田議員に入ったお金がアメリカに？

真崎　そうではないか、と推測されるわけです。そしてこの度のNBC新社屋建設と、何かを運び出した跡。これはM資金を運び出し、別の保管場所に移動させた跡なのではないか、そう推測されるわけです。

浅葱　そのM資金は今どこに？

真崎　それこそ、国民の皆さんが関心を持って、これから暴いていかなければならない闇なのです！ 信じるか信じないかはあなた次第！ 以上、NBC、真崎慎一郎がお伝えしました。拍手！

真崎、自分に拍手。

真崎　……放送終了つと。

音楽終了。間。

高橋　全部、終わりだよ。

真崎 まさにその通り。みなさん、ありがとうございました。きつとここを出る頃には記者陣の山ができてますよ。

輝奈子 満足ですか？

真崎 ……別に。先輩が少しでも浮かばれたら、それでいい。

輝奈子 あなたのやり方じゃ、第二第三の岡田は止められない。

真崎 じゃああなたのやり方ならできるって言うんですか？

輝奈子 それができるのは私たちじゃありません。

真崎 は？

輝奈子 私たちの次の世代です。

真崎 西田光希？

輝奈子 もっと先ですよ。少しずつ変えていくしかないんです。1議席ずつ議席を増やして行って、いつか過半数にたどり着く。その日の世代です。それが最低限のルールの中での真つ当な戦い方です。

松尾 二・二六事件は失敗だった。クーデターは失敗します。

真崎 明治維新はなつたじゃないか。

輝奈子 数と風が大事なんです。風の流れが大切なんです。あなたはとてつもないことを一人でなし遂げたと思います。それでも個人の力には限界があるんです。

真崎 いいですよそれでも。所詮、先輩の弔い合戦みたいなものですから。

栗子 なんで相談してくれなかったんですか？

真崎 ラインしたでしょ。ごめん。色々決め事をしてたので、遅れます。」
って。謝罪は済んでる。

栗子 そんなの分かるわけじゃないじゃないですか！

真崎 んー。実はあの日、俺地方に異動が決まっちゃってね。

栗子 異動？

真崎 左遷？ 島流し？ まあ俺も歳だし、家族もいるし、自分のことは東京にいた間に片をつけないとなーって。

栗子 博多。水炊きって。そういう。……ご家族がいるなら、なおさらこんなことしたら！

真崎 理解は得てるよ。

栗子 だってこんなことしたら、博多どころか。

真崎 だから、理解は得てるって！

栗子 一言、一言でいいから相談してくれたら良かったのに！
真崎 なによ。いつものことじゃない。そんなに怒らないでよ。
栗子 真崎さんは何もなし遂げてませんよ！
真崎 何も？ 何もってことはないんじゃない？
栗子 何も、ですよ。
真崎 なんて？
栗子 放送、されたと思いますか？ 今までのことが？
真崎 え？
栗子 真崎さん、知ってるじゃないですか。
真崎 何を？
栗子 私が、上層部と親密だって。
真崎 ……………。

【音響…BGM】

栗子 国民は誰もさつきまでの映像を見てませんよ。
真崎 部下に？
栗子 違いますよ。その先です。
真崎 その先？
高橋 どう言うことですか？ 生放送は？ 流れてたんじゃないんですか？
部！ 誰も見てないんですか？
真崎 まさか。
松尾 先生が、「真崎の声は国民に届くことはない。」と。
高橋 なんて？
栗子 ス克蘭ブル放送です。
光希 ス克蘭ブル放送？
鈴木 はいはいはいはい。
光希 え？
鈴木 ス克蘭ブル放送っていうのは、放送電波を暗号化して、その暗号化された電波を解読する受信側の装置がないと見れないようにする方式のこと。つまり、さつきまでの映像は暗号化されて配信されていた。
光希 暗号化？

鈴木 NBCのスクランブルの受信機を持つてる人なんていない。つまり誰も見てない、そういう訳ですね。

浅葱 ス克蘭ブル化の準備ができてたつてこと？ NBCが？

鈴木 そこはそこで掘り下げてみたいところではありませんが。

高橋 聞いたことがない！ NBCにスクランブル放送の準備ができてるなんて！

輝奈子 電波ジャックは失敗？

栗子 電波ジャック失敗はその通りですが、少しだけ違います。先ほどの放送、受信していた人がいるということですよ。

高橋 だって見れないんじゃないんですか？

光希 暗号化されてるんですよ？

栗子 B・C・A・Sカードとかって聞いたことないですか？ それを受信側で暗号を解く鍵のようなものなんです。

高橋 じゃあそれを持つてる人がいるってことですか？

栗子 そう。NBCスクランブル放送の受信側の装置を持つてる人がいます。

松尾 それはもしかして。

栗子 そうです。岡田議員と、そしてもう一人。

真崎 そういう、ことか。

栗子 NBC本社の高橋役員です。

高橋 ……父が？

栗子 はい。トカゲの尻尾、と言ってましたけど。あなたを切ったのは、正確に言えば、岡田議員でも松尾秘書でもありません。あなたのお父上です。

高橋 嘘だ！ だって、父は、いつだって……。

栗子 信じるか信じないかはあなた次第、いや、松尾さんに聞いてみるのが早いですか？

松尾 私は、聞かされていません。

栗子 そうですか。じゃあ、帰ったらお父様に聞いてみてはいかがですか。

高橋 ……もう、汚点は消してしまえの精神ってことですね。

栗子 何を思っただの行動かまでは、私は知りません。部下として従っただけです。

真崎 結局全て搦め手か。栗子、まさか、お前までとは。お前だけはこちら側だと。だっってお前は。

栗子 真崎さん！ 黙ってもらえますか？

真崎 どんな思いで服従してるんだお前は？ 仕方ないと諦めてるのか？

割り切ってるのか？、権力には逆らえないと！

栗子 黙ってもらえますかと言ってるんです！

真崎 ……もういい。もう、疲れた。

栗子 私は、真崎さんの味方になる準備がありました！ 先走ったのは、真

崎さんですよ！

真崎 俺が？

栗子 大馬鹿ですよ！ 真崎さんは！

真崎 大馬鹿。

栗子 すいません！ 帰ります！

栗子、去る。

鈴木 私たちもお暇しましうかね。岡田先生にご挨拶に行く必要があります。うです。

浅葱 そうですね。失礼します。

松尾 乗りかかった舟ということもあります。繋ぎましようか。

鈴木 いえ結構。私たちには私達のルートがありますから。

松尾 そうですか。

鈴木 では、また会うことがあれば。

鈴木、浅葱、去る。

光希 私たちは、どうなるんですか？

松尾 おそらく、今まで通りでしょう。今回切られたのは、真崎さんと、高

橋さんです。総務省の2人と岡田先生がどう話をつけるかわかりませんが、

結局、元の形に戻るだけです。

光希 元の形。

輝奈子 私たちが、5億をNBCに返して、残りを活動資金にするってことで
すか？

松尾 最終的なところは岡田先生が判断されると思いますが、おそらく…

…。

真崎 岡田となんか繋がってたらあんたらもいつか切られますよ。

輝奈子 その準備はいつでも。

高橋 しつぽに逆襲の権利はないですよ。

輝奈子 え？

高橋 (笑って) 聞かされてないんですか？ 元々ね、僕はあなたたちから10億を奪おうとしてたんですよ？

輝奈子 それはどういう。

松尾 高橋さん。

高橋 岡田議員からしたら、10億渡したという事実があれば、あなたたちのその後なんて知ったこっちゃないってことです。貸しを作ることが目的なんですから。

光希 なんですかそれ！

松尾 高橋さん、これ以上立場を悪くされない方がよいのでは？

高橋 わかりましたよ。

光希 どういうことですか！ 結局岡田議員も私たちを騙そうとしてたってことですか？ 輝奈子さん！ 私わかんないですよ全然！ 輝奈子さんが何考えてるのか！

輝奈子 松尾さん？ これは私も説明を頂きたいですが？

松尾 ……今回、結果的にあなたがたに10億は入ります。それでいいじゃ

ありませんか？

輝奈子 そうですね。

光希 いいんですか？ 納得して！

輝奈子 納得の問題じゃないの。

光希 わかんないです。

輝奈子 まだわからなくていい。

光希 でも。

松尾 高橋さん。

高橋 なんですか？

松尾 トカゲの尻尾は切ってもまた生えてきますよ？

高橋 だから逆襲は無駄だったことでしょ？

松尾 違います。

高橋 え？

松尾 実は、トカゲの尻尾が完全に元の状態に戻ることはないのです。トカゲは尻尾に栄養を溜め込んでいる生き物。尻尾を切り離れたトカゲは弱っています。

高橋 松尾さん、それって。

松尾 解釈はお任せします。

真崎 どいつもこいつも権謀術数ばかりでやってらんないねー。

松尾 社会とはそのようなものと認識しています。

真崎 はっ。つまんない社会だねー。誰かぶっ壊して欲しいもんですわ。

松尾 そうですね。(スマホを見て) え？ 嘘。それじゃあ。

高橋 なんです。もう大抵のことじゃ驚かないですよ。

松尾 それどころのことではありません。

【音響・BGM】

輝奈子 何かあったんですか？ 岡田議員が何か？

松尾 す。そ、総務省情報流通行政局に、鈴木、磯部という役人はいないそうです。

光希 今帰ったあの2人がいない？

輝奈子 どういうことですか？

松尾 北さん！ すぐに口座を！ LIMITの口座を見てください。

輝奈子 え？ は、はい。(スマホを開く。)

高橋 どういうことですか！

真崎 なるほど。そういうことか。(真崎、笑い出す。乾いた笑い。)

高橋 何納得してるんですか？ どういうことですか？ なに笑ってるんですか？

輝奈子 ……ゼロです。なくなってます。さっきまであった15億が！

松尾 やっぱり。

光希 ねえ、どういうことですか？

松尾 高橋さん！ LIMITさんに用意したこの口座は？

高橋 7年前、架空の会社用に開いたいくつかの口座の中の1つです。それ以来こういう時には、その中の口座を。

【照明…暗転】
【音響…BGM】

○急 1

【照明…公園 夕方】
代々木公園。

鈴木 罌は二重三重とかけておくものだよ。

浅葱 おじいちゃん、本当に天才だ。

鈴木 結果、想定より得をした。

浅葱 老後は安泰だね。

鈴木 にしても「M資金」ってのは、高度経済成長期からバブルにかけて、頻繁に使われた詐欺の常とう文句だ。まさかこんなところで聞くとは。

浅葱 でも「M資金」なんて必要ないでしょ。

鈴木 まあな。

浅葱 おじいちゃんの4億と、私の1億。今回の15億を合わせて20億。(スマホを見せて) 共同口座に入れたから、20億もあれば、運用だけでこの先やっていけるね。

鈴木 そんなに贅沢な暮らしをする必要もない。家族が増えたら、使ってやればいい。

浅葱 そうだよね。

鈴木 ああ。

浅葱 なんか、顔つきが穏やかになってない？

鈴木 そうか？

浅葱 憑き物が落ちたみたい。

鈴木 月が降りてきた。

浅葱 え？

鈴木 回復の象徴。

浅葱 言ってたね。

鈴木 M資金は戦後復興の象徴なのかもな。

浅葱 じゃあ早速沖繩に、行かなきゃね。

鈴木 金の使い道なんだが。
浅葱 え？
鈴木 沖繩のために使いたい。
浅葱 ……いいよ？ でもちゃんと私達の分も残してね。
鈴木 ああ。もちろんだ。
浅葱 じゃあ渋谷も見納めだね。
鈴木 ああ、だが、その前に、名前を。
浅葱 え？
鈴木 私の、本名を。
浅葱 (制して) いいの。
鈴木 なに？
浅葱 今回の、確信しちゃった。おじいちゃんはおじいちゃんだよ。
浅葱 証明はいらぬ。野暮じゃない？
鈴木 そうか。
浅葱 待ち合わせ。明日12時に羽田空港ね。
鈴木 ああ。
浅葱 荷物まとめられる？
鈴木 私はもともと身一つさ。
浅葱 じゃあこれから一杯買い揃えなきゃね。
鈴木 ああ。そうだな。
浅葱 やったー。
鈴木 ん？
浅葱 色々うまくいったでしょ。だから、やったー。
鈴木 ああ。オムレツはうまくいかなかったけどな。
浅葱 うわー、まだそれ言うの？
鈴木 冗談だ。スクランブルエッグも悪くない。
浅葱 でしょ？ じゃあ、はい。(オリオンビールを渡す)
鈴木 ああ。
浅葱 乾杯！
鈴木 乾杯。

浅葱、去る。

鈴木、そのまま残る。

【音響・飛行場】

○急2

【照明・空港】

空港。

真崎がスーツケースを転がしてくる。

そこに栗子。

真崎 ああ、栗子か。

栗子 冷たいですね。

真崎 嫁とは離婚したよ。

栗子 え？ だって理解があるって言ってませんでした？

真崎 だからもう誰も信じるつもりはないよ。もちろん、栗子のことも。

栗子 じゃあ博多、どうしていくんですか？

真崎 高橋役員は俺を飼い殺しにしたいらしい。ネット事業を成功させたい
と言うのもある。ネットなら東京だろうがどこだろうが、ね。

栗子 飼い殺し。

真崎 いっだって寝首を搔いてやるよ。明治維新の大元の大元のきっかけは
江戸時代の外様大名、つまり中央から離れた勢力の拡大でしょう。

栗子 (笑って) どんどん時代が古くなりますね。今度は大化の改新とか言
い出すんじゃないですか？

真崎 まさにその通り。

栗子 懲りないですね。

真崎 お前こそ、よくやったよ。

栗子 え？

真崎 お前としっかり協力してたら、違う未来があったかも。

栗子 奇跡ですよ。

真崎 奇跡？

栗子 逆の奇跡です。真崎さんがあそこを見つけてしまったのは。

真崎 ツキがないってことだな。

栗子 まあ、そうかもです。
真崎 じゃあな。
栗子 はい。

真崎、去る。

○急3

そこへ浅葱がやってくる。

浅葱 やあ。
栗子 やあ。
浅葱 じゃ、行こっか、北海道。
栗子 なんで北海道なの？
浅葱 え？ 逆だから？
栗子 なんの逆？
浅葱 えー、秘密。
栗子 秘密か。ま、秘密ならいいけど。
浅葱 そうそう。秘密を詮索してもいいことないって。
栗子 そうね。
浅葱 ねえそういえば、もう2億も使ったの？
栗子 え？ ああ、それか。
浅葱 2億もなにに使ったの？
栗子 ー、私を信じてくれた子に。あげた。
浅葱 ええ？ 2億も？
栗子 うん。なんか、賭けてみたくなった。
浅葱 賭け？
栗子 そう。
浅葱 なにそれ。
栗子 秘密。
浅葱 はいそれ言ったらおしまいだよ。
栗子 そう、おしまい。

【照明…暗転】
【音響…渋谷スクランブル交差点】

○急4

【照明…室内】

渋谷。TSUTAYA。スターバックス。
栗子、浅葱。

浅葱 今日会うよ。鈴木稔。

栗子 どう？ うまくいきそう？

浅葱 んー、まだ少し疑われてるかな。ここからが勝負？

栗子 浅葱なら大丈夫でしょ。

浅葱 栗子の方は？

栗子 こっちも基本的には問題ないかな。

浅葱 基本的には？

栗子 ちよつとね。巻き込みたくない人を巻き込んだじゃいそう。

浅葱 やめる？

栗子 まさか。

浅葱 そりゃそうか。私もせっかくここまで頑張ったしね。

栗子 うん。

浅葱 でもあんなジジイと私、共通点くない？ 似てなさすぎ。血が繋が

つてるとか無理あるわ。

栗子 似てる似てる。大丈夫だって。

浅葱 その大丈夫は嬉しくない。栗子の親の仇に似てるって言われて嬉しい

はずがないでしょ？

栗子 まあ、そうか。

浅葱 栗子が自分でやればいいのに。

栗子 できないできない。

浅葱 まあ、そうか。ガルバ時代もよくお客さんと喧嘩してたもんねー。店

長困ってたよ。

栗子 だいたい向こうが悪いでしょ。

浅葱 そこを耐えないと。

栗子 無理。だから今回だって、ね。

浅葱 でもあいつ、本当に反省してるっぽいよ。

栗子 関係ないよ。

浅葱 関係ないの？

栗子 根本は見ず知らずの他人に罪を着せて、自殺に追い込むようなやつなんだから。

浅葱 更正したって言っても過去が変わるわけじゃないってことね。

栗子 あのね、人の過去は変えられないの。犯した罪はなくならない。人生やり直しはきかないし、やり直したつもりでもしこりは残る。許されることは一生ない。

浅葱 まあねー。人間、根本の部分ってなかなか変わらないからねー。

栗子 浅葱は？

浅葱 え？

栗子 浅葱は私のこと、裏切らない？

浅葱 任せてよ。栗子のことを愛してる、からさ。

栗子 ふふふ、私も。

浅葱 「も」じゃなくてちゃんと行ってよ。

栗子 言葉に縛られないの。

浅葱 え？

栗子 そういうことは私、態度で示すから。

浅葱 え？

栗子 私の1番は、浅葱だって。

浅葱 なるほどね。でも、やだ。

栗子 え？

浅葱 言って欲しい。私は、言って欲しいかな。

栗子 そう。

浅葱 うん。

栗子 ……アイスコーヒー、飲み終わった。

浅葱 (笑って) 古典的だね。じゃあ、いってきます。オムレツ作んなきゃいけないから。

栗子 オムレツ？

浅葱　こっちはこっちで大変なの。そっちはそっちでお偉いさん方の相手が
大変だと思うけどさ。

栗子　大丈夫！　お偉いさん方って余裕のある男ぶりたいからさ、このまん
までも割と平気なんだよねー。逆に楽。

浅葱　じゃあ適材適所か。

栗子　そういうことー。

浅葱　じゃ、行ってくる。私も態度で示すから、態度でちゃんと示してよね。

浅葱、去る。

栗子　うん、信じてるから。

栗子、手を振る。

そこへ、真崎が入ってくる。

真崎　ねえ、その書店さー

栗子　！？（身体をビクッとさせる）

真崎　不死身の軍人が創業したんだって。

栗子　は？

真崎、横に座る。あっけにとられる栗子。

【照明…暗転】

会話が続く。

【音響…空港の音と渋谷スクランブルの音が混ざっていく】

真崎　ここで問題。俺の頼んだメニューはなんでしよう？

栗子　……ダークモカチップフラペチーノ、ですか？

真崎　おお、正解。さすがカフェでバイトしてただけあるね。

栗子　私バイトしてたのバーなんですけど。

真崎　あれ？　そうだったけ。

○エンディング

【音響…空港】

【照明…中央スポット】

再び空港。

人々が錯綜する中、一人佇む鈴木。

スマホを覗く。気づけば、人々はいない。

【音響…飛行機の音】

ピタッと無音。

【照明…レッド】

鈴木

汚い月だなあ。

【照明…月が残る】

【照明…暗転】

幕

【音響…BGM】